

Handwritten: 2089

文書成立ニ關スル證明書

自分ハ第一復員局文書課長ノ職ニ居ル者ナル處茲ニ添付セル日本語ニ依リ印刷セラレテ四頁ヨリ成ル軍紀風紀上要注意事例集ト題スル印刷物ハ日本政府ハ陸軍省一ノ編纂ニ係ル文書ノ一ナルコトヲ證明ス

昭和二十二年八月十四日 於東京

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタルモノナルコトヲ證明ス

兼復員局文書課長 美山要藏



同日於同所

立會人

新田伊三郎



Obey

1565

三、地域別觀察(非行ヲ除ク).....	三
四、階級別觀察().....	四
五、罪種別觀察().....	六
1、志氣沮喪犯.....	九
2、指揮權冒濫犯.....	一〇
3、對上官犯.....	一一
4、物欲犯.....	一二
5、對住民犯.....	一三
6、色情犯.....	一四
7、暴行犯.....	一五
8、殺伐犯.....	一六
9、其ノ他ノ犯罪.....	一九
六、非行別觀察.....	一九
1、地域別.....	二〇
2、階級別.....	二一
3、主要非行ノ狀況.....	二二
附表第一 昭和十八年度全軍犯罪統計表	

陸軍部
 調査課
 調査係
 昭和十八年度
 全軍犯罪統計表
 目録

附表第二 昭和十八年度全軍犯罪種別統計表	
附表第三 昭和十八年度全軍非行統計表	
附表第四 昭和十八年度軍人軍屬褒賞狀況一覽表	
附表第五 昭和十八年度軍人軍屬懲罰狀況一覽表	
第二 雜	

一、私的制裁ニ基因スル犯罪.....	折表
二、殆ト軍隊ノ實質ヲ喪失セル重大軍紀犯ノ事例.....	二二
三、軍隊ノ神聖ヲ冒濫シ之ヲ全ク地方化シタル事例.....	三一
四、大東塾ノ對軍部策動ノ現況.....	三七
五、上級將校ノ濫職事例.....	三七
1、報道部員ノ惡德甚シキ事例.....	四八
2、陸軍航空審査部現役中佐ノ濫職事例.....	四八
3、小倉陸軍造兵廠長以下高級將校等ノ事例.....	五五
六、幹部候補生ノ放火事件.....	五六
七、最近ニ於ケル火災事故.....	五七
八、陸軍病院長ノ看護婦強姦事件.....	五九
	六三

公(私)文書 四五名
偽造行使 二五名
贓物 二五名

之ニ次ク更ニ之ヲ階級別ヨリ觀ルニ

將校 (〇・四〇) 將校ニハ准士官、見習士官ヲ含ム
下士官 (〇・三八)
兵 五九五名 (〇・二八)
軍屬 八三九名 (二・九〇)

ニシテ總數、指數共軍屬最大ナルト幹部特ニ將校ニ於ケル此ノ種犯罪ノ多發ハ戒心ヲ要スル所ナリ

5、對住民犯

對住民犯ハ二八五名(〇・〇一)ニシテ軍別ニ觀レハ在支軍ノ二〇八名(〇・二九)、最モ多ク南方五〇名(〇・一〇)、
滿洲二五名(〇・〇三)ノ順位ナルガ更ニ之ヲ罪種別ニ觀レハ左圖ニ示ス如ク掠奪、戰地強姦等ノ惡質事犯多發シア
ルハ注意ヲ要スル所ナリ特ニ在支軍ニ此ノ種犯罪ノ多發シアルト該方面將兵ノ對住民感道德感ノ刷新向上ヲ要スル
モノアリ

軍事秘密

將校ノ外閱覽ヲ禁ズ (用濟後燒却ノコト)

昭和十九年六月陸軍省

昭和十八年一月二十八日
陸密第二五五號別冊第七號

軍紀風紀上等要注意事例集

本資料ハ主トシテ軍紀風紀ノ振肅、服務及内務ノ刷新向上ニ資スル爲憲兵情報
特別報告、軍法會議諸報告中注意ヲ要スベキ事例ヲ蒐集シタルモノナリ
尙本資料ノ利用不十分ナルモノアル現況ナルヲ以テ中隊長等ニ至ル迄要旨ヲ徹
底セシメラレ度

目次

第一 昭和十八年全軍軍紀風紀概要

一、一般狀況

二、役種別觀察



DP2088



585

付

三、地域別觀察(非行ヲ除ク).....	三
四、階級別觀察().....	四
五、罪種別觀察().....	六
1、志氣沮喪犯.....	九
2、指揮權冒瀆犯.....	一〇
3、對上官犯.....	一一
4、物欲犯.....	一三
5、對住民犯.....	一四
6、色情犯.....	一四
7、暴行犯.....	一五
8、殺伐犯.....	一六
9、其ノ他ノ犯罪.....	一九
六、非行別觀察.....	一九
1、地域別.....	一九
2、階級別.....	二〇
3、主要非行ノ狀況.....	二一
附表第一 昭和十八年度全軍犯罪統計表	

陸軍部 昭和十八年度全軍犯罪統計表
 昭和十八年度全軍犯罪統計表
 昭和十八年度全軍犯罪統計表
 昭和十八年度全軍犯罪統計表

附表第二 昭和十八年度全軍犯罪種別統計表	
附表第三 昭和十八年度全軍非行統計表	
附表第四 昭和十八年度軍人軍屬褒賞狀況一覽表	
附表第五 昭和十八年度軍人軍屬懲罰狀況一覽表	
第二 雜	

一、私的制裁ニ基因スル犯罪.....	折表
二、殆ト軍隊ノ實質ヲ喪失セル重大軍紀犯ノ事例.....	二二
三、軍隊ノ神聖ヲ冒瀆シ之ヲ全ク地方化シタル事例.....	三一
四、大東塾ノ對軍部策動ノ現況.....	三七
五、上級將校ノ瀆職事例.....	四八
1、報道部員ノ惡德甚シキ事例.....	四八
2、陸軍航空審査部現役中佐ノ瀆職事例.....	四八
3、小倉陸軍造兵廠長以下高級將校等ノ事例.....	五五
六、幹部候補生ノ放火事件.....	五五
七、最近ニ於ケル火災事故.....	五九
八、陸軍病院長ノ看護婦強姦事件.....	六三

第一昭和十八年全軍軍紀風紀概況

一、一般狀況

昭和十八年度軍内犯罪數ハ(憲兵ノ調査ニ依ル以下同シ)四、五四四名(指數千分比一、二三以下同シ)ニシテ前年度四、五一六名(一、二四)ニ比シ二八名増(〇、〇一減)ナリ又非行ハ一〇、〇八九名(三、五〇)ニシテ前年度一一、六三六名(一、七六)ニ比シ一、五四七名減(〇、五二減)ナリ即チ犯罪非行ノ總數ハ前年度ト大差ナキモ過去五ケ年ノ狀況ヲ見ルニ幹部ノ犯罪急増シアルト奔敵逃亡等將兵ノ志氣沮喪ヲ表現スル犯罪及統率指揮ヲ紊亂シ軍隊ノ存立ヲ危クスル對上官犯等ノ犯行ノ急増ヲ認ムル等ハ顯著ニ質的惡化ノ狀況ヲ現示シアル所ニシテ最モ注意嚴戒ヲ要スル所ナリ昭和十八年度犯罪、非行、褒賞、懲罰統計表附表第一乃至第五ノ如シ

1、幹部ノ犯罪
軍隊ノ植榦タルヘキ將校ヲ始メトシ幹部ノ犯罪多キハ特ニ注意ヲ要スル所ニシテ昭和十八年度ノ狀況ヲ見ルニ幹部ノ犯罪ハ六八四名ニシテ本年度陸軍犯罪總數四、五四四名ノ一五%強ヲ占メ昨年度ニ比シ將校八二名(指數一、二五)カ一、四二トナル)、下士官五三名(指數一、四〇)カ一、四二トナル)計一三五名ノ増加ヲ見タリ特ニ將校ニ於テ昭和十四年度ノ二倍強(指數一、五倍)トナリ其ノ罪質、犯情等ヨリ考察スルニ逃亡四二名、上官暴行三一、辱罵二八名等惡質軍紀犯多ク特ニ青年將校ニシテ酒色ニ溺レテ軍中逃亡ヲ敢行シタル者或ハ上級將校ニシテ一時ノ憤激ヨリ對上官犯ヲ敢行シタル者或ハ又高級將校ノ瀆職行為ヲ見タルハ遺憾トスルモノナリ

2、志氣沮喪ニ起因スル犯罪

本年度犯罪中特ニ注意ヲ要スルハ奔敵逃亡等志氣沮喪ヲ表徴スル犯罪ノ急増セル事實ニシテ實ニ奔敵三七名、逃亡
一、〇二九名ヲ算シ陸軍犯罪總數四、五四四名ノ二三、四%強ヲ占メ昭和十四年度六六九名ニ比シ約三倍ノ激増振
リヲ示シ特ニ奔敵カ前年度ニ比シ三一一名、六倍強増加セルハ最モ注意ヲ要スル所ナリ
戦局ノ苛烈深刻化ニ伴ヒ愈々、必勝ノ信念ヲ堅持シ志氣ヲ昂揚セシムベキモノナルニ此ノ如ク戦意ヲ昂揚セサル犯行
ノ急増ヲ認ムルハ洵ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ

3、指揮權紊亂ニ起因スル犯罪

軍ノ精強ヲ期スル爲統率指揮權ノ承行ヲ嚴正ナラシムルハ極メテ緊要ナルコトニ屬シ情勢ノ急迫ニ臨ミテ微動クニ
セサル皇軍ヲ擁スル爲特ニ統率指揮ヲ強化スルハ絕對ノ要請ナリ
然ルニ或ハ指揮權ヲ冒濫シ或ハ指揮軟弱ナル等統率指揮權ノ承行ヲ紊亂セル犯罪ハ總數三百件ニ達シ逐年増加ヲ示
シアルハ注意ヲ要スル所ナリ

4、對上官犯

抗命、上官暴行、上官脅迫傷害、上官殺、上官侮辱等ノ對上官犯ハ昭和十八年度三百名ニシテ逐年増加シ特ニ黨與
事犯二件七三名、上官殺一〇名ノ多發ヲ認ムルハ特ニ注意ヲ要スル所ニシテ就中對直屬上官犯カ昨年一七名ヨリ六
二名ノ三倍強ノ激増ヲ見タルハ最モ遺憾トスル所ナリ
第一線防空大隊長ニシテ作戰命令ニ反抗シタル者、飛行機ノ空輸途次指揮官ノ命ニ背キタル者或ハ最近賭博、脱糶、
暴行横行シテ遂ニ下士官以下數十名ノ黨與對上官犯發生シタル等ハ軍隊ノ存立ヲ殆クシタル事犯ト謂フヘキナリ

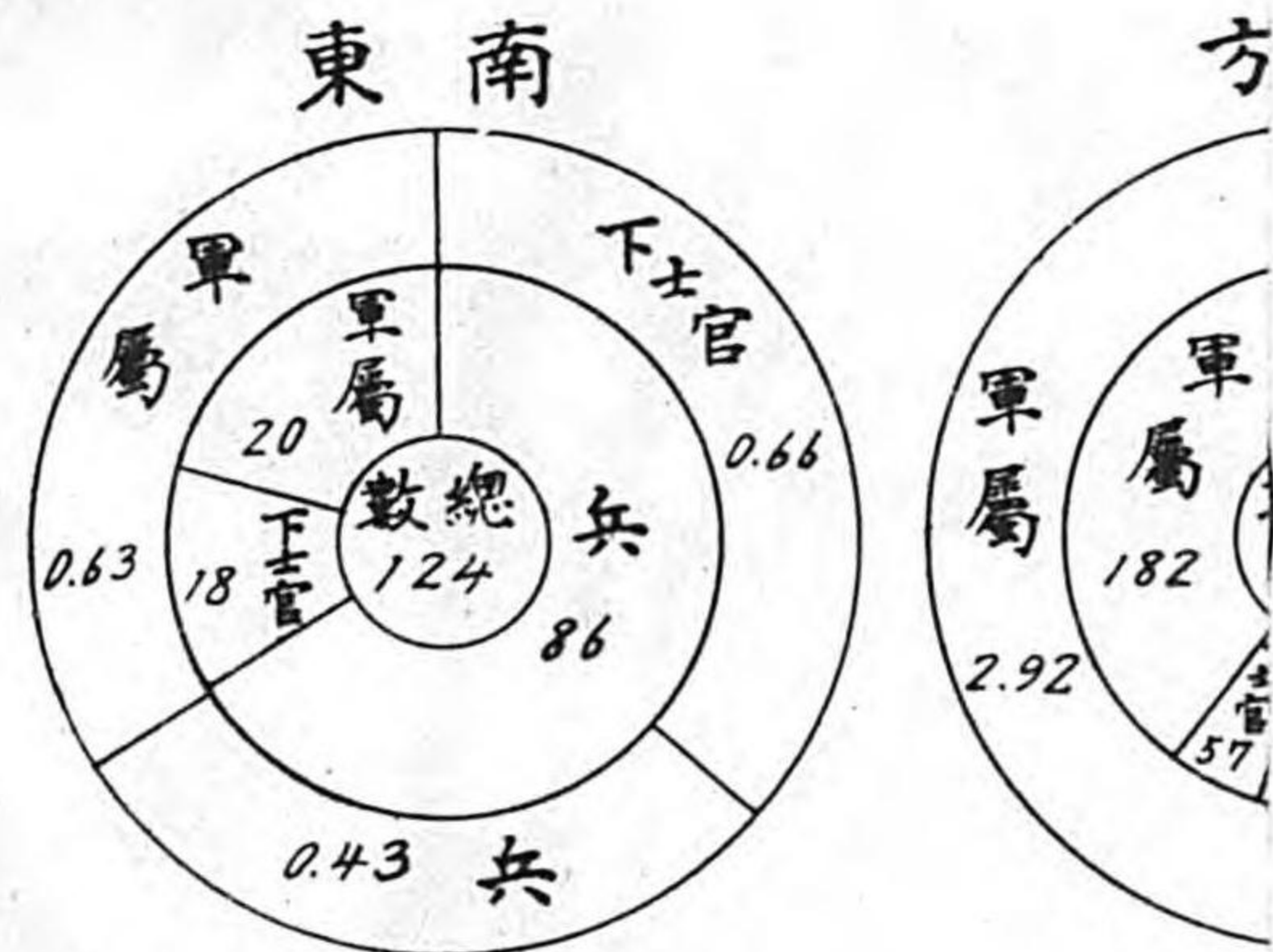
二、役種別觀察

現役、應召別等ニ就キ觀レハ犯罪ハ現役一、六二九名(一、一八)、應召者一、三〇七名(一、〇七)、軍屬一、六〇八
名(四、八四)ニシテ指數ニ於テ軍屬ノ犯行殊ニ多キト應召者ニ比シ却ツテ現役者ノ犯行多キハ注意ヲ要スル所ナリ
非行ニ於テハ現役三、七三〇名(二、七一)、應召者三、一七一(一、五九)、軍屬三、一八八名(九、八一)ニシテ共
ノ傾向ハ犯罪ト同様ナリ即チ軍屬ノ取締ニ就テハ格別ノ努力ヲ要スルモノアリ

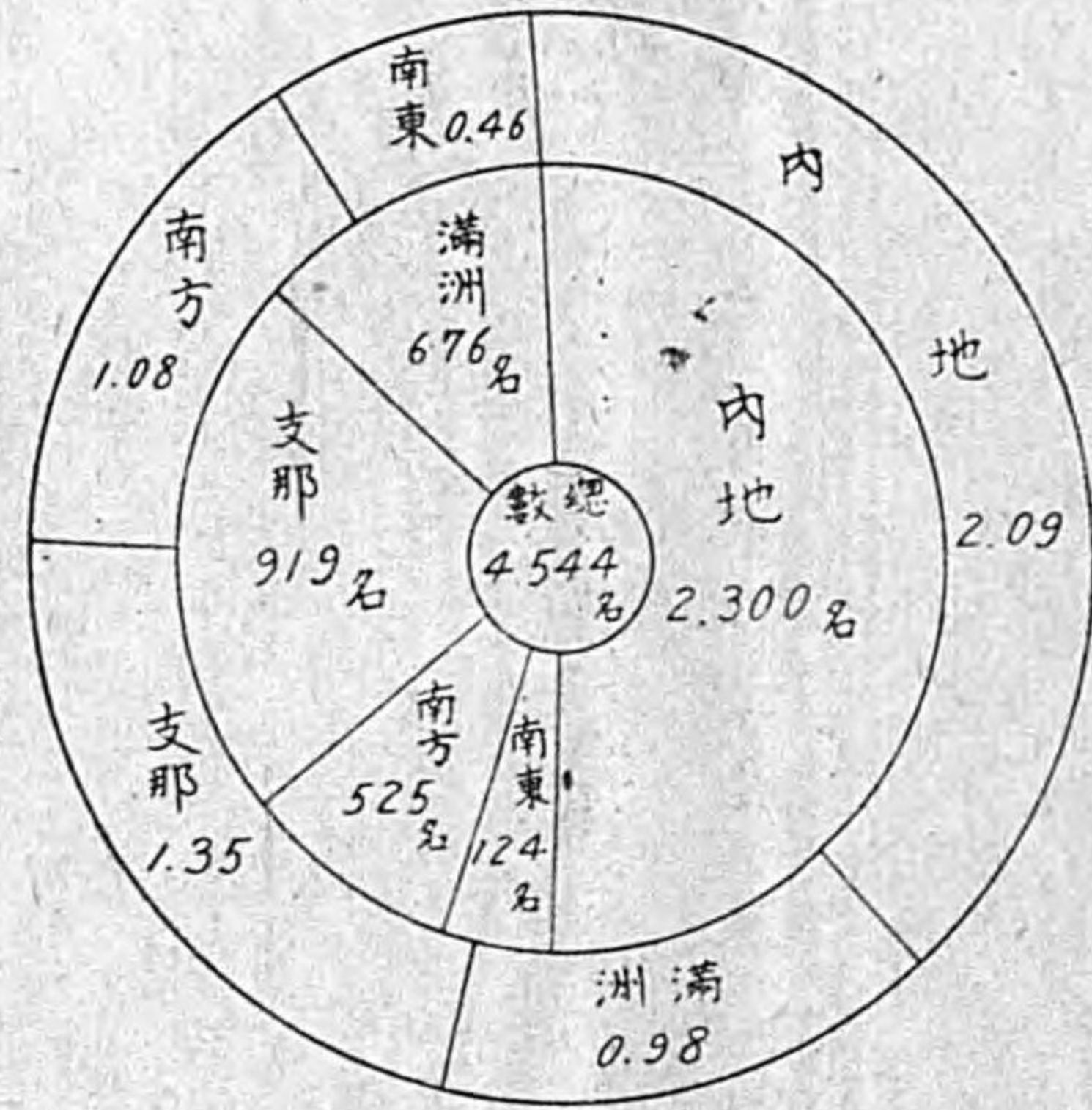
三、地域別觀察 (非行ヲ除ク)

地域別ニ之ヲ觀レハ左圖ニ示ス如ク總數ニ於テ内地其ノ半數ヲ占メ指數亦特ニ大ナリ内地部隊ニ於テハ軍屬極メテ多
キハ戒心ヲ要スル所ナリ内地ニ次キ支那ニ犯罪多キヲ以テ該方面部隊ノ指導ニハ尙一段ノ努力ヲ要スルモノト認ム

摘要
 一、外側圓内、數字ハ指數(千分比)ヲ示ス
 二、將校中ニハ准士官見習士官ヲ含ム



圖覽一罪犯別地域

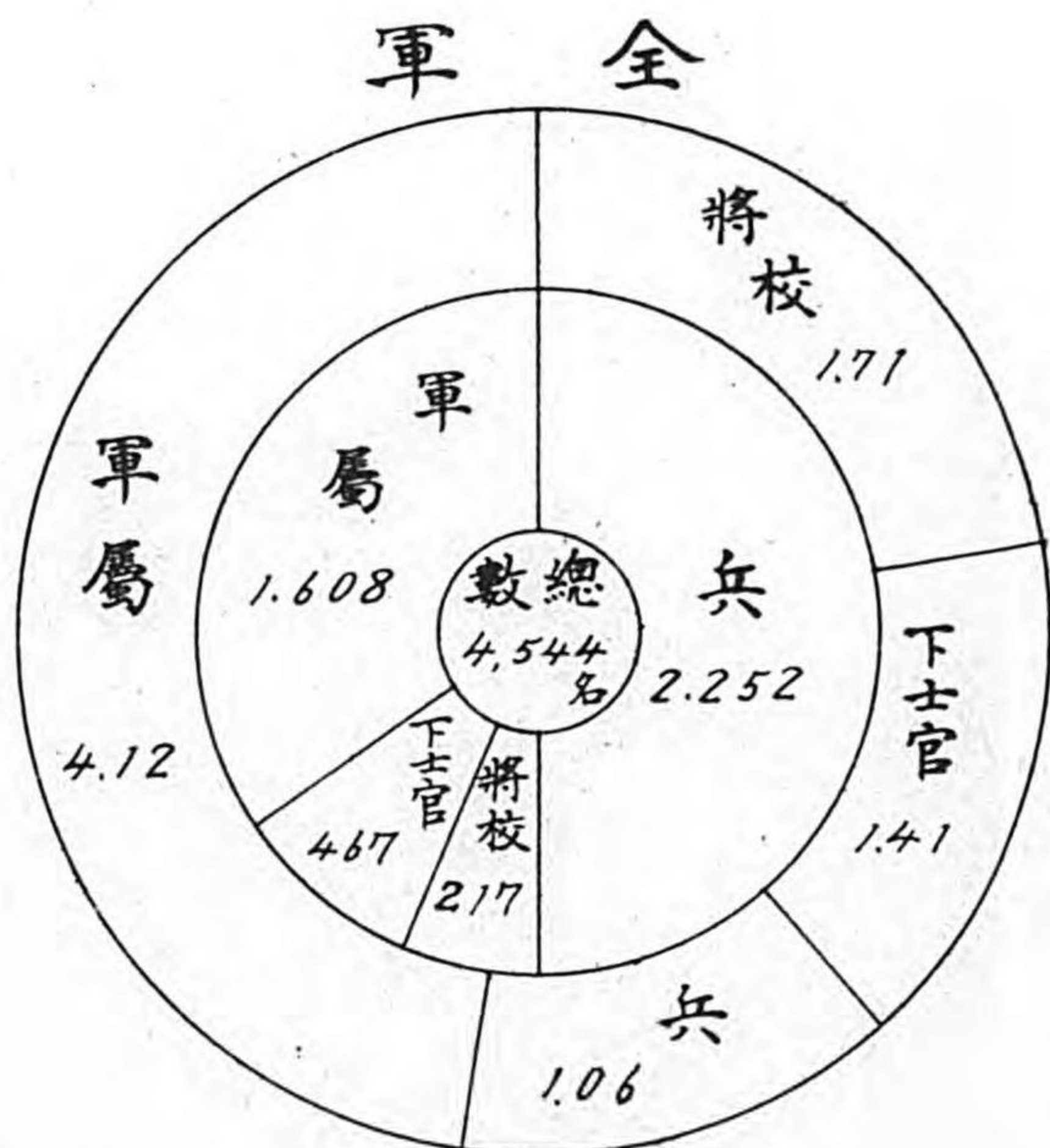


四、階級別觀察 (非行ヲ除ク)

階級別ニ觀察スレハ左圖ノ如ク

摘要
 外側圓内ノ數字ハ
 指數(千分比)ヲ示ス

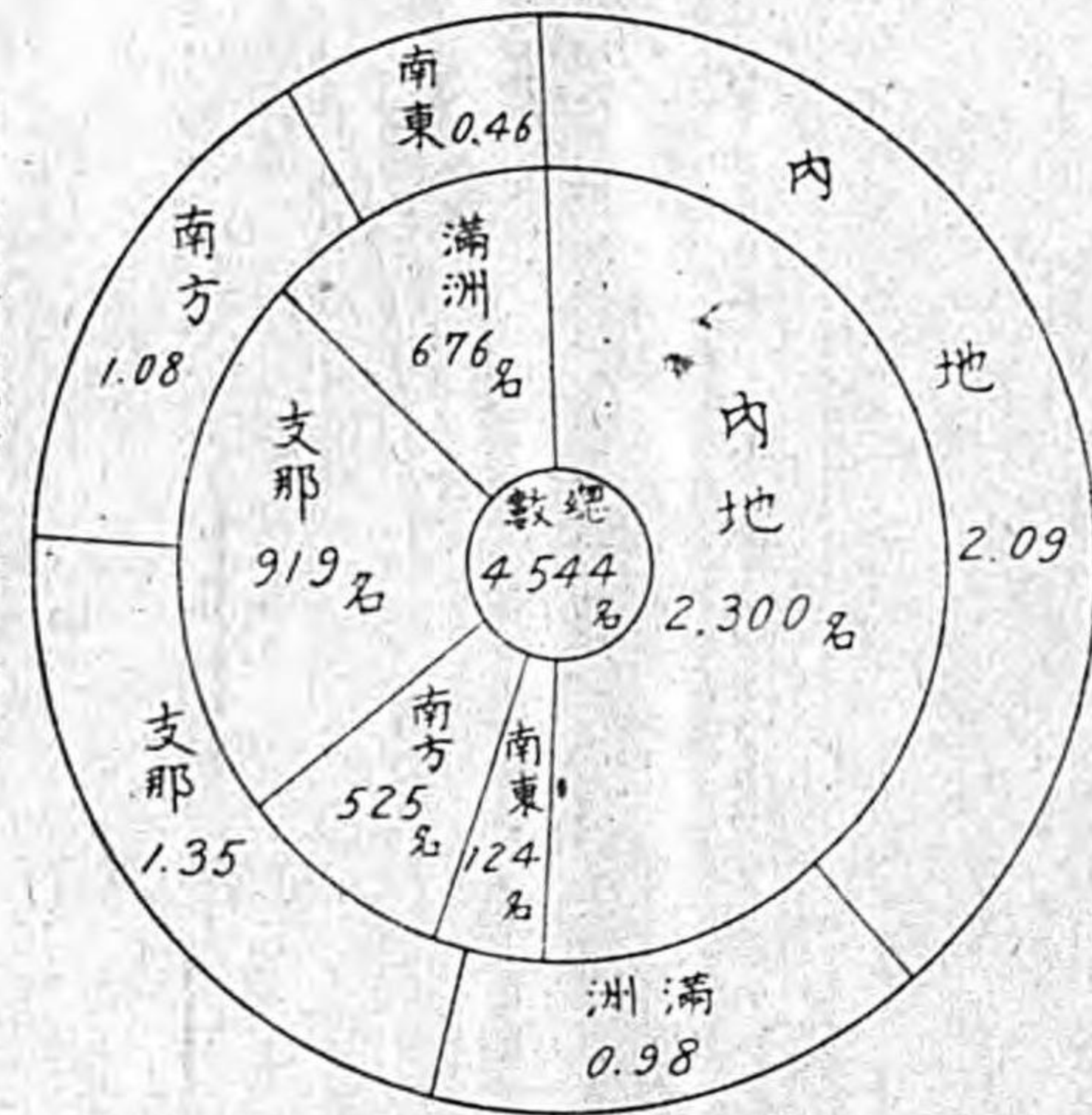
階級別犯罪一覽圖



摘要
 一、外側圓内、數字ハ指數(千分比)
 二、將校中ニハ准士官見習士官ヲ
 含ム



圖 覽 一 罪 犯 別 域 地



階級別ニ觀察スルハ左圖ノ如ク

四、階級別觀察 (非行ヲ除ク)

摘要
外側圓内ノ數字ハ
指數(千分比)ヲ示ス

軍屬ノ犯罪極メテ多キヲ以テ之カ監督指導ニハ格段ノ努力ヲ要スルモノアリ又幹部ノ犯罪兵ニ比シ何レモ多キハ其ノ地位ニ鑑ミ極メテ遺憾トスル所ナリ軍紀振作ノ爲幹部就中將校ノ率先垂範ト自戒ヲ要スルヤ切ナルモノアリ之ヲ軍別ニ觀レバ各階級ヲ通ジ内地部隊ノ指數特ニ大ナルヲ以テ國民ノ中核タルヘキ内地部隊ノ地位ニ鑑ミ監督指導ヲ一層徹底セシムルノ要アリ
更ニ之ヲ前年度ト對比セハ次表ノ如ク指數ニ於テ特ニ將校、軍屬増加シアルハ其ノ地位ト境遇ニ鑑ミ注意ヲ要スル所ナリ

階級別	昭和十八年		昭和十七年		増△減
	人員	指數	人員	指數	
將校	227	1.42	138	1.25	○
下士官	467	1.41	440	1.40	○
兵	2,252	1.06	2,326	1.18	△
軍屬	1,608	4.22	1,613	3.23	○
備考	將校ニハ准士官、見習士官ヲ含ム				

罪種別ニ觀レハ左表ノ如ク

五、罪種別觀察 (非行ヲ除ク)

罪種別一覽圖



尙階級別ニ觀レハ

階級	名数
將校	一六名 (〇・一〇)
下士官	五三名 (〇・二〇)
兵	一六九名 (〇・〇八)

將校ニハ准士官、見習士官ヲ含ム

ノ如ク總數ニ於テ兵、軍屬ニ最モ多キモ將校、軍屬ノ指數最モ多キハ遺憾トスル所ナリ
 9、其ノ他ノ犯罪
 其ノ他ノ犯罪總數ハ八二六名ニシテ全軍犯罪ノ一八・二%ニ達シアルカ之ヲ軍別ニ觀レハ次表ノ如ク内地部隊其ノ過半數ヲ占メ且刑法犯多發シアリ

考 備	總 計	其 他 法 令		刑 法		軍 刑 法		法 令 別 區 分	
		人員	指數	人員	指數	人員	指數	內 地	關 東 支 那 南 方 南 東
指 數 八 千 分 比 ヲ 示 ス	四四〇〇・五七	九三〇・一二	二六〇・〇四	二一七〇・二八	七二〇・一一	一三〇〇・一七	六五〇・〇九	人員	指 數
	一六三〇・二四	二六〇・〇四	一八〇・〇三	七二〇・一一	四二〇・〇六	二二〇・〇二	一〇〇・〇三	人員	指 數
	一三一〇・二〇	一八〇・〇三	一〇〇・〇三	五八〇・一二	二〇〇・〇六	二〇〇・〇三	二五〇・〇九	人員	指 數
	八八〇・一八	一八〇・〇四	一〇〇・〇三	一八〇・〇四	二〇〇・〇六	二〇〇・〇三	二五〇・〇九	人員	指 數
	四〇〇・一二	一〇〇・〇三	一〇〇・〇三	四二〇・〇六	二〇〇・〇六	二〇〇・〇三	二五〇・〇九	人員	指 數
	八二六〇・二八	一五六〇・〇五	一五六〇・〇五	四二〇〇・一五	二〇〇・〇六	二〇〇・〇三	二五〇・〇九	人員	指 數

主ナル事犯トシテハ軍刑法犯ハ違令ノ一六七名最モ多ク軍用物毀棄八一名之ニ次ク刑法犯ニ於テハ過失致死傷ノ三二五名ヲ最モトシ放(失火)ノ五二名之ニ次ク其ノ他法令ハ軍機保護法違反八五名ヲ最モトシ國家總動員法違反二九

名之ニ次ク

六、非行別觀察 (附表第三參照)

1、地域別

地域別ニ觀レハ左圖ノ如ク



摘要

外側圓内ノ數字ハ指數(千分比ヲ示ス)

總數ニ於テ内地多キモ南方ニ於テ指數最高ヲ示シアルヲ以テ今後ノ犯行ノ惡質化ヲ防遏スル如ク注意ヲ要スルト共ニ刑懲罰處分ヲ嚴正ナラシメ以テ軍紀振作ニ努力ヲ要スルモノアリ

2、階級別

階級別ニ之ヲ觀レハ左表ノ如ク總數ニ於テ兵、軍屬ニ多發シアルモ指數ニ於テハ軍屬壓倒的ニ最高ヲ占メアルト兵ヨリモ反ツテ將校、下士官高率ヲ示シアルハ注意ヲ要スル所ナリ亦軍別ノ特色ヲ觀ルニ將校及軍屬ハ南方、支那、下士官ハ内地、支那、南方、兵ハ南方高率ヲ示シアリ

非行階級別發生狀況一覽表

軍階級別	將校		下士官		兵		軍屬	
	人員	指數	人員	指數	人員	指數	人員	指數
内地	一八六	三・五五	五六四	七・二九	一、二六八	二・二三三	一、二一五	一〇・一一
關東	一六一	四・三〇	二四九	三・五九	六〇四	一・一二二	三三四	八・二八
支那	一五八	五・一五	三九七	六・一三	一、一六七	二・一二二	四八二	一三・六五
南方	一八〇	八・六七	五三五	五・六七	一、一八二	三・八六	一、〇八九	一七・六五
南方	六	〇・五五	七四	二・七三	一七〇	〇・八六	六八	二・一六
計	六九一	四・五四	一、八一九	五・四六	四、三九一	二・〇七	三、一八八	一一・〇一

備考
 一 將校ニハ准士官見習士官ヲ含ム
 二 指數ハ千分比ヲ示ス

3、主要非行ノ狀況

非行ノ内容ハ各軍別ニ依リ之ヲ異ニスルモ一般的ニ觀レハ

- 離隊、脫營(無斷外出、上陸) 一、五四四名
- 酩酊暴行服裝態度ヲ紊ス 一、五九八名
- 演習勤務公用外出中遊興又ハ私用ヲ辨ス 九〇二名
- 未檢閱書翰投函 七〇三名
- 暴行又ハ傷害 五三七名
- 等最モ多ク
- 他人ノ金品抜取り又ハ無斷使用或ハ欺キテ金品ヲ提供セシム 四七四名
- 立入禁止區域(密淫窟)ニ立入り遊興 四一七名
- 正規ノ服裝ヲ爲サス(服裝ヲ紊シ)外出 三九六名
- 交通事故、規則違反 二七八名
- 軍機要塞關係 二五四名
- 婦人(痴情)關係 二三一一名

婦女ト戯ル等風紀ヲ紊ス
物資ノ不正搬出入

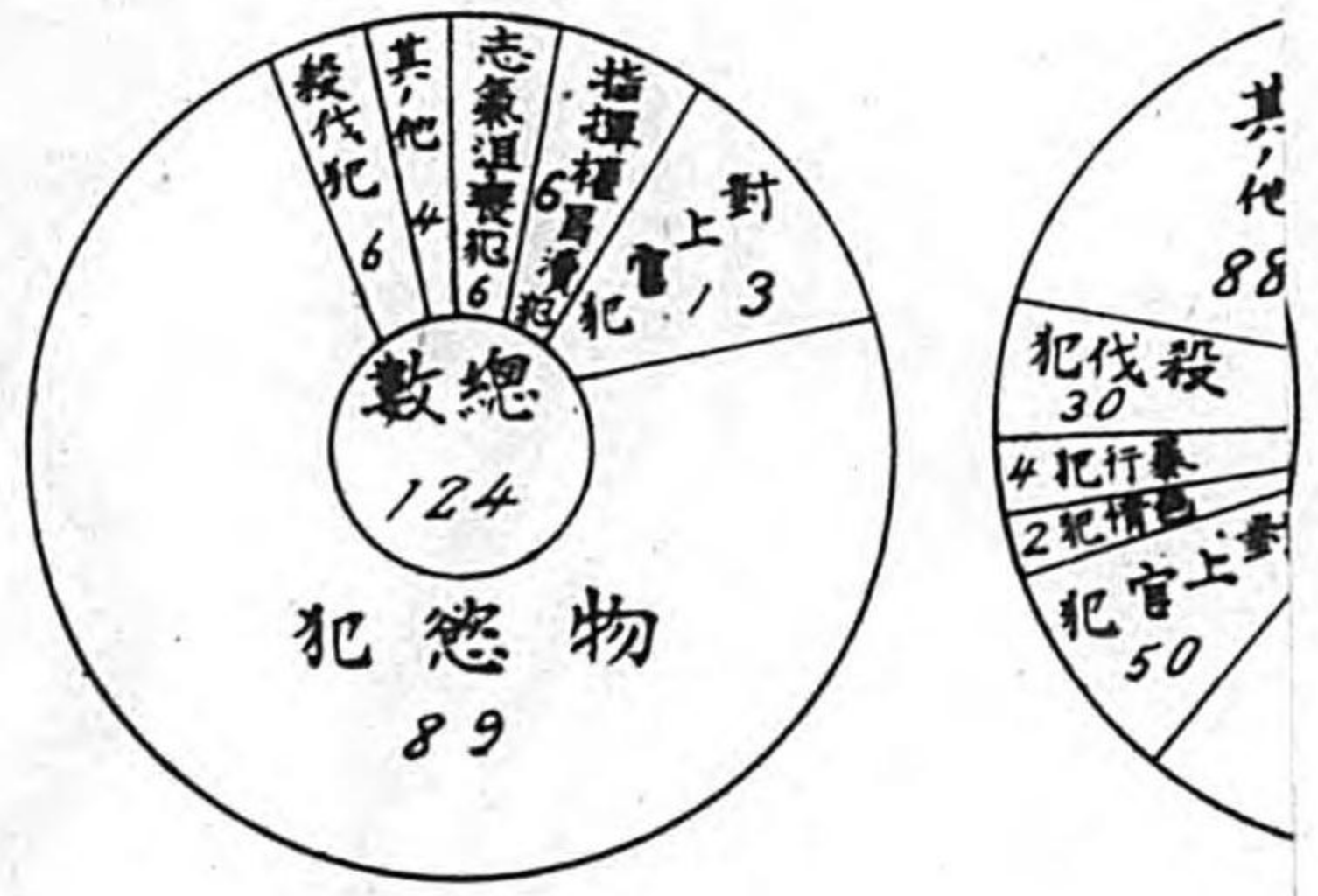
○ 對住民暴行(傷害)
歸營(船)運刻

之ニ次ク

而シテ之等非行ノ大部ハ飲酒及色慾物慾乃至戰場氣分ニ基因スルモノナリ就中飲酒ニ基因スルモノ一、五九八名ニシテ全非行ノ一、五八%ヲ占メアル實情ナルヲ以テ飲酒ノ指導ニハ特ニ注意ヲ要スル所モノアリ

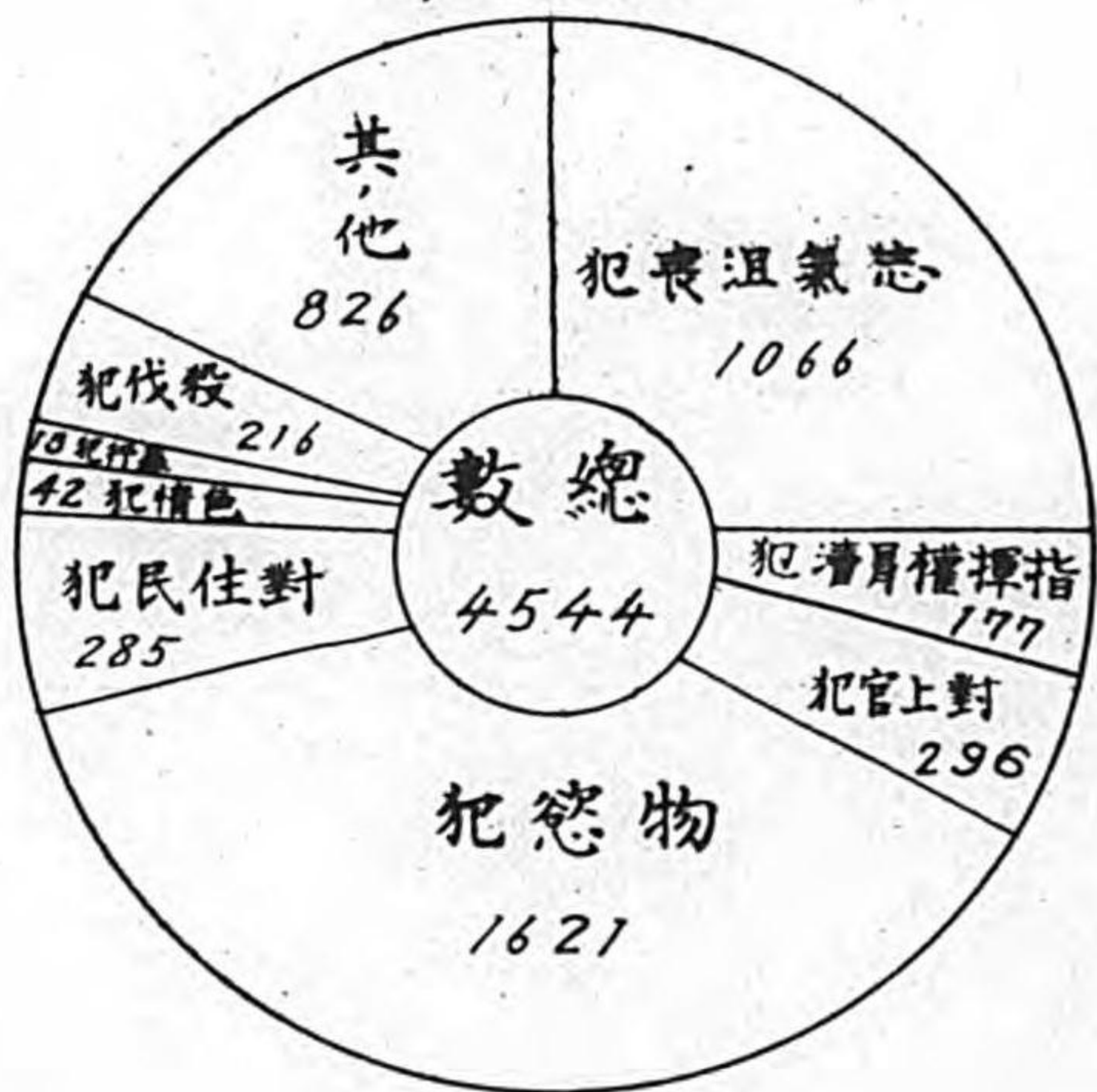
- 二一八名
- 一九六名
- 一七四名
- 一七二名

東南

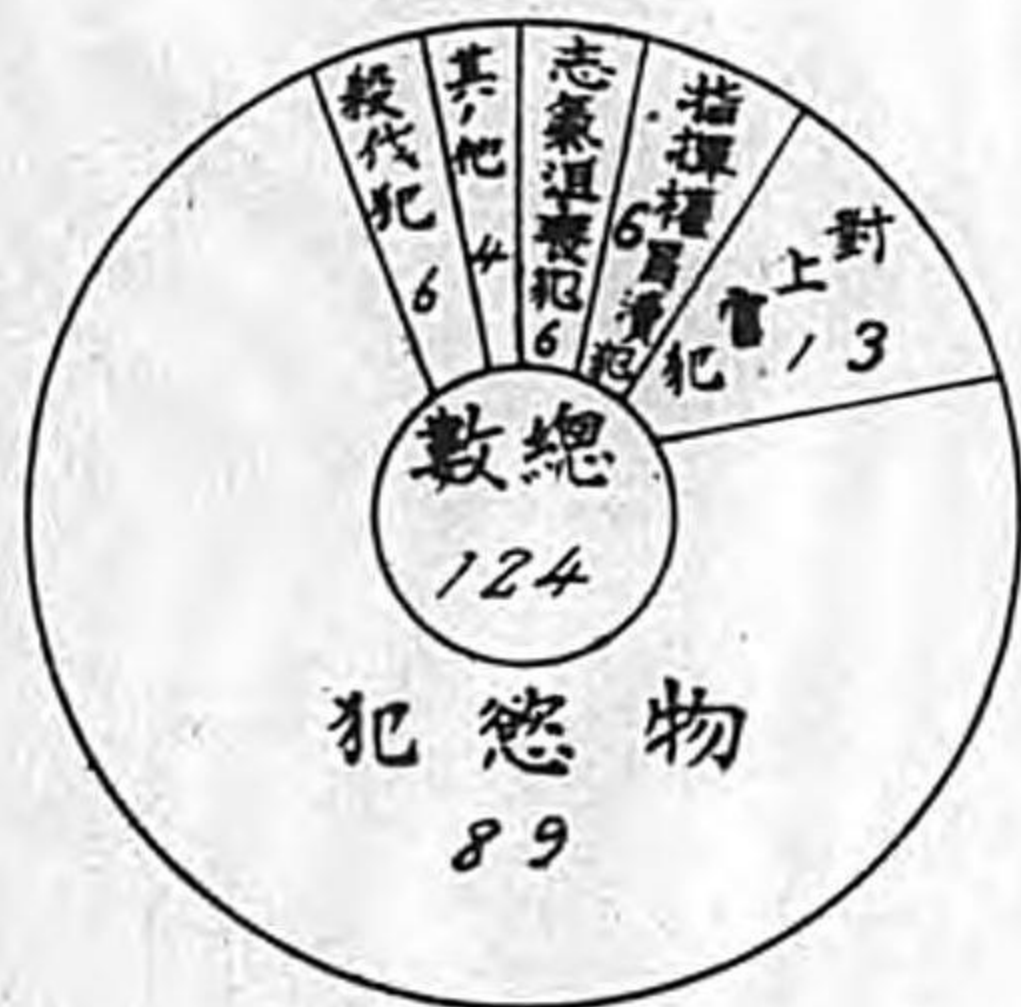


犯罪罪種別一覽圖

全軍



東南



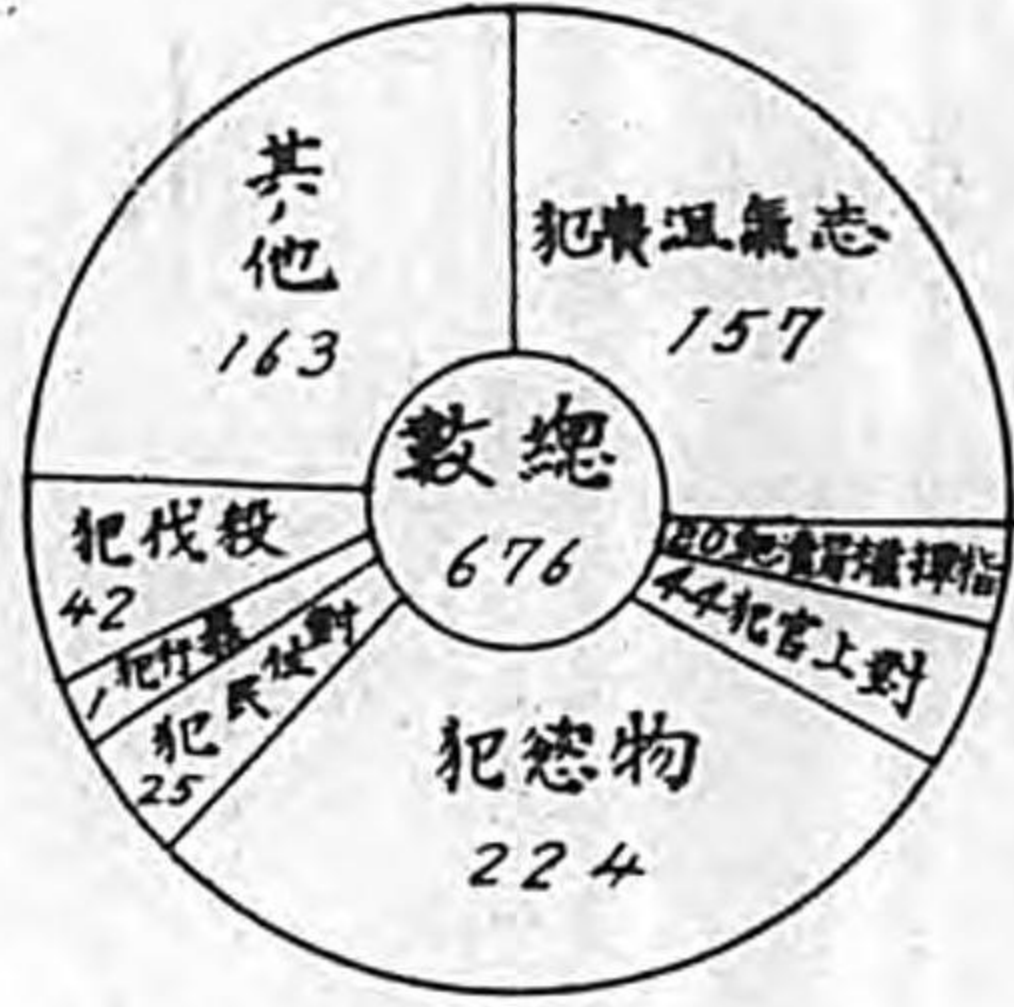
方南



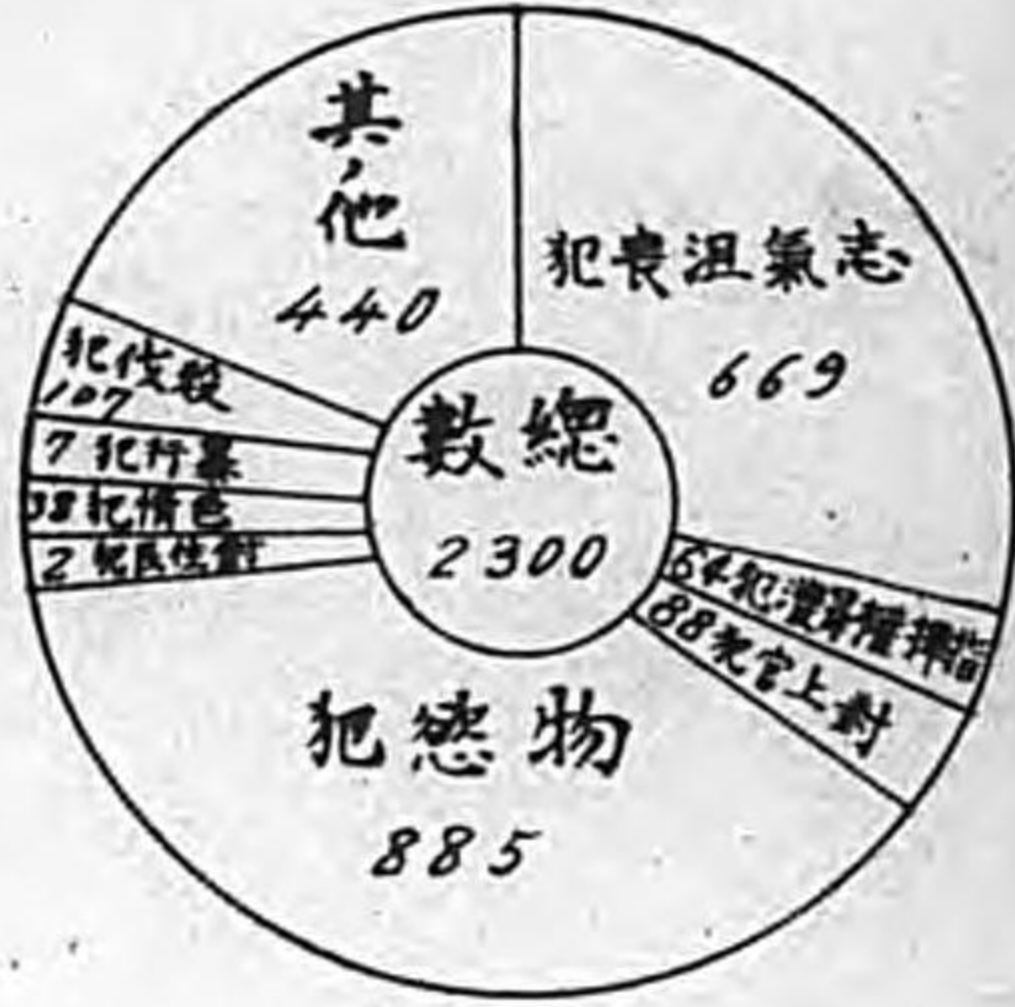
那支



洲滿



地內



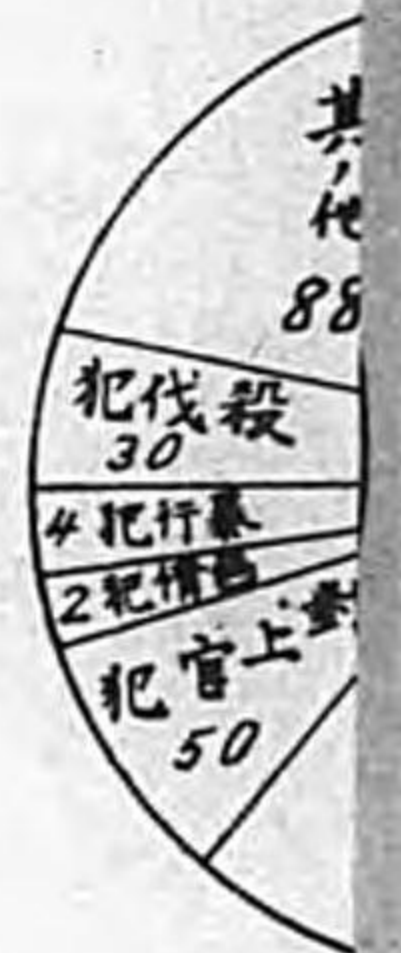
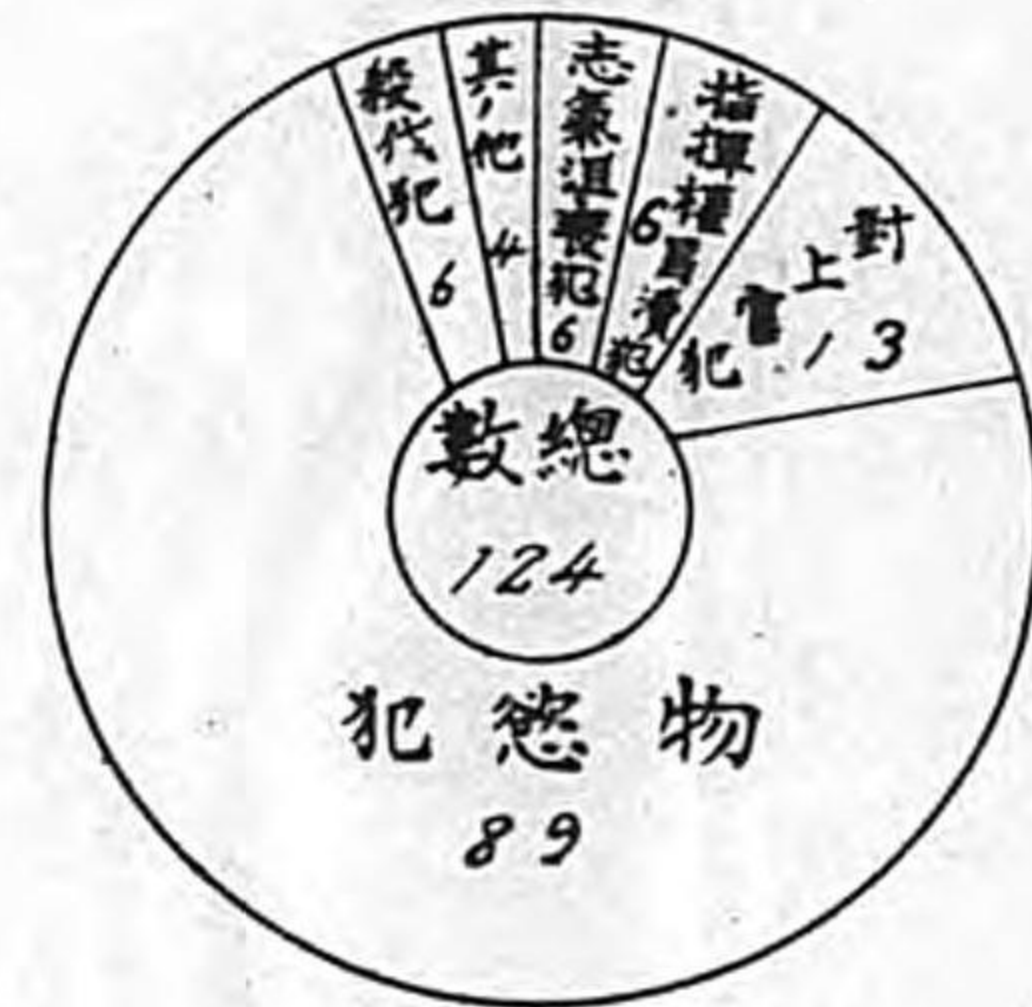
物欲犯歴倒の多數ヲ占メ志氣沮喪犯、對住民犯、對上官犯、殺伐犯、之ニ次キ色情犯、暴行犯ハ極メテ僅少ナリ尙軍別ノ特色トシテ觀取セララルハ内地、關東、南方各軍ハ物欲犯、志氣沮喪犯ヲ最多トナシアルニ對シ在支軍ニ於ケル物欲犯ニ次キ對住民犯ノ多發南東方面ニ於テハ對上官犯、物欲犯ニ次キアル點等ナリ、物欲犯ノ多發ハ決戰下特ニ國民ノ儀表タルヘキ軍人軍屬トシテ自肅自戒ヲ徹底シ軍民一體ノ實ヲ發揮スルニ萬遺憾ナキヲ期スルノ要アリ又南東方面ニ比較的對上官犯多キヲ以テ戰局ノ現階段ニ於テ特ニ森嚴ナル軍紀ヲ振作スルノ要アリ

次ニ階級別ニ多發犯ヲ觀察スレハ挿表第一乃至第六ノ如クニシテ

將	校	物欲犯、殺伐犯
准士官	物欲犯、殺伐犯、對上官犯	
見習士官	殺伐犯、對上官犯	
下士官	物欲犯、對住民犯	
兵	物欲犯、志氣沮喪犯	
軍屬	物欲犯、志氣沮喪犯	

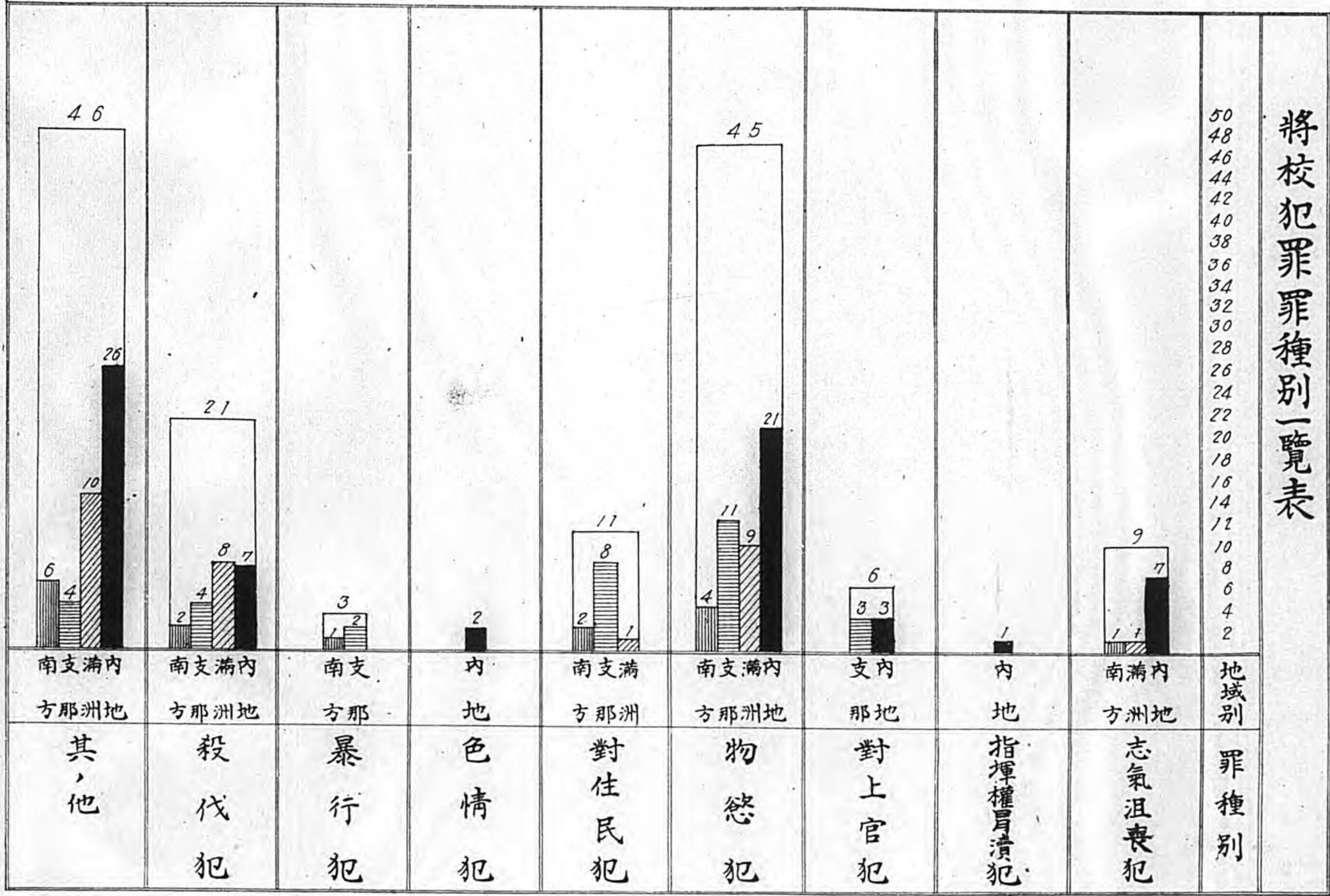
等見習士官ヲ除キ各階級ヲ通シ物欲犯力最モ多ク將校、准士官、見習士官ハ殺伐犯下士官ハ對住民犯、兵、軍屬ハ志氣沮喪犯之ニ次キ多發シアリ

東南



將表第一

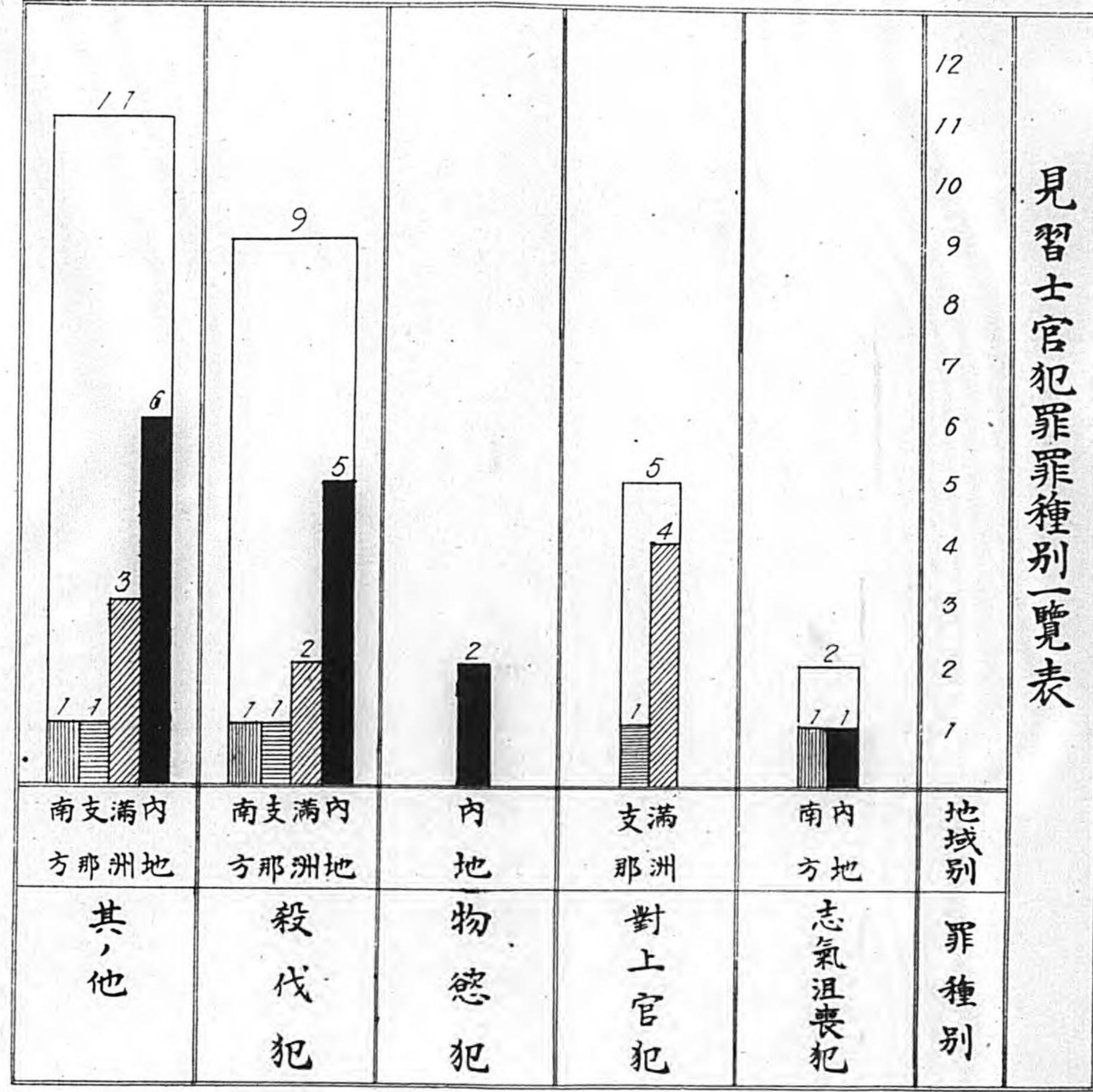
將校犯罪種別一覽表



50
48
46
44
42
40
38
36
34
32
30
28
26
24
22
20
18
16
14
12
10
8
6
4
2

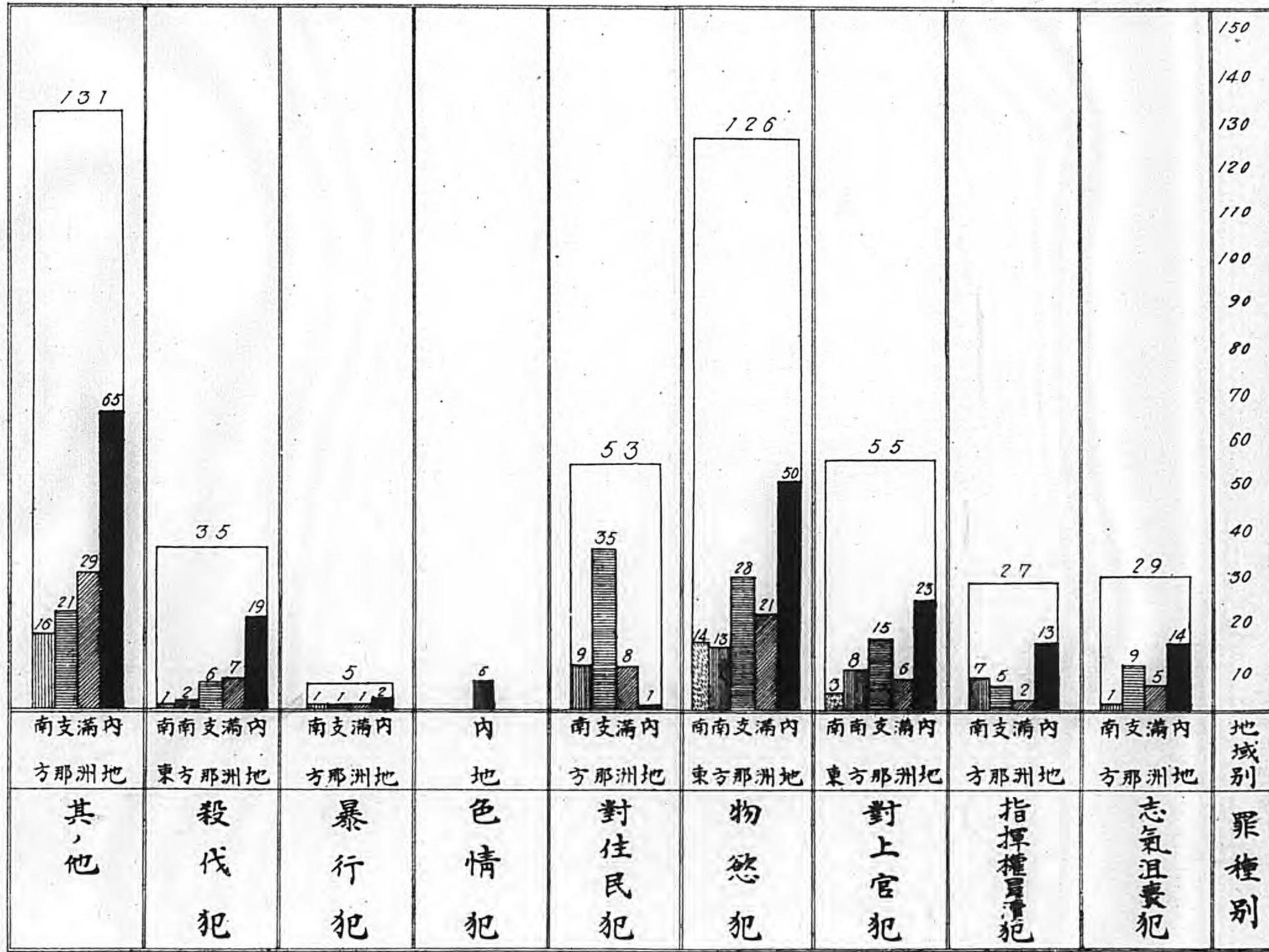
挿表第三

見習士官犯罪種別一覽表



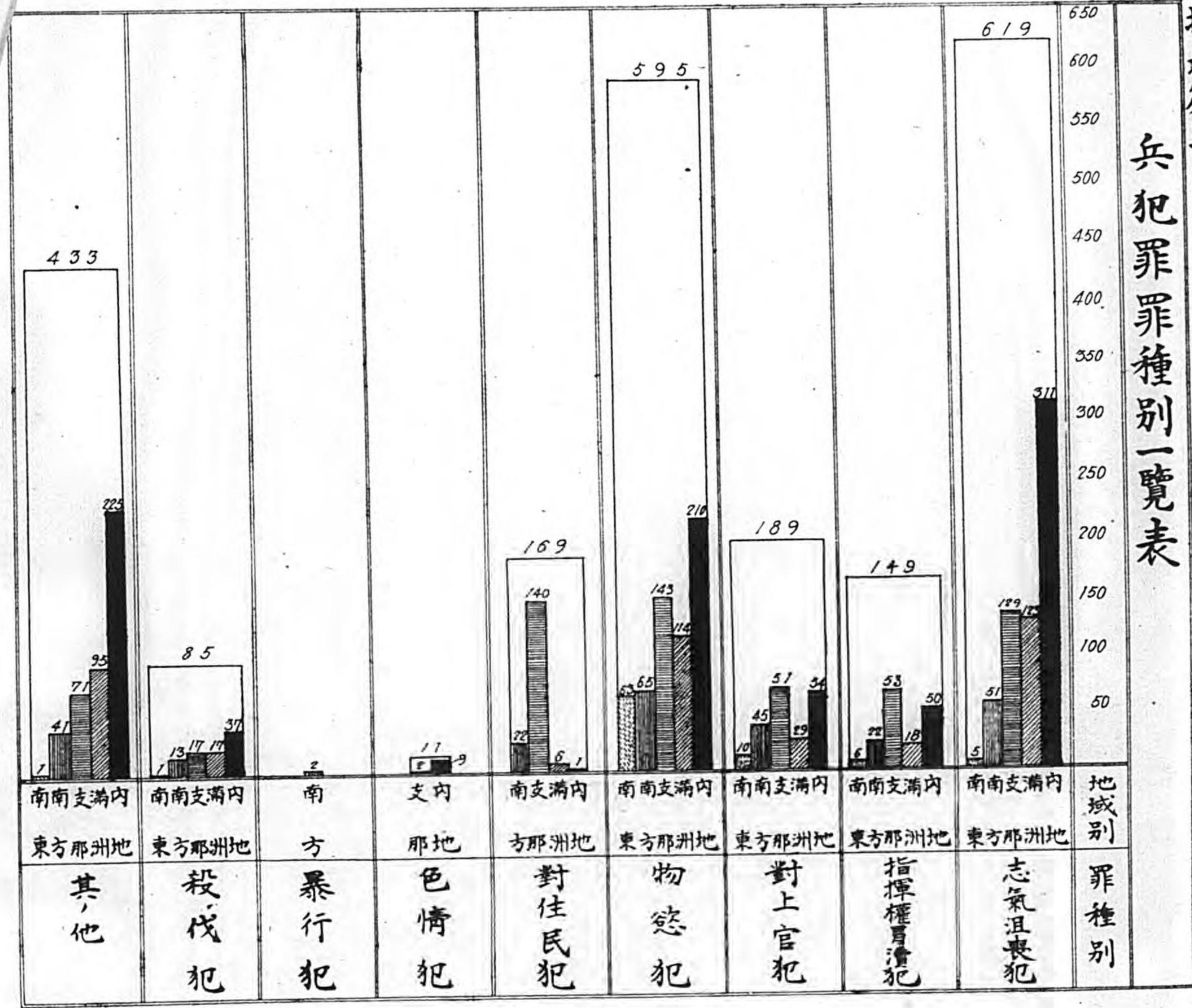
挿表第四

下士官犯罪種別一覽表



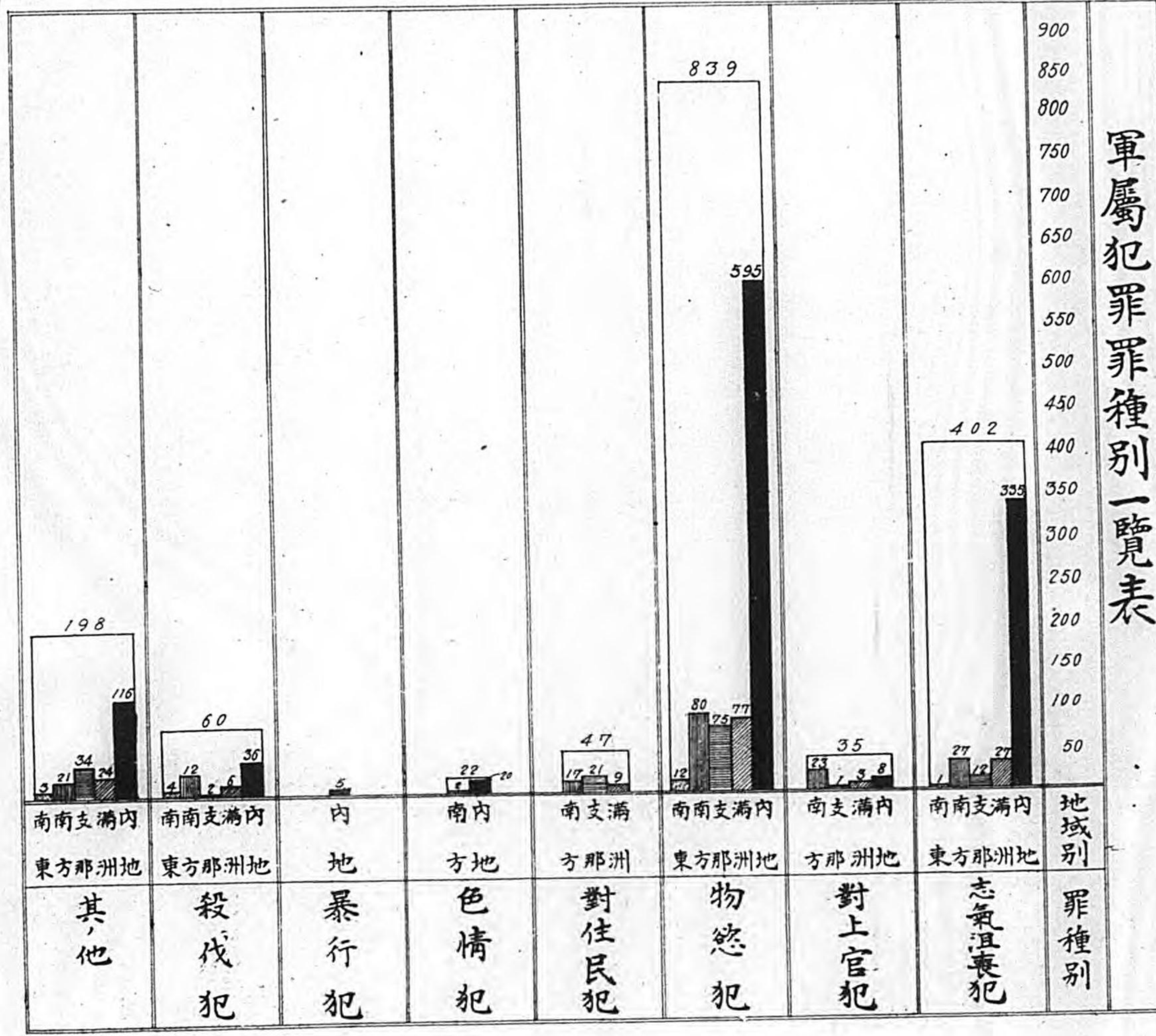
挿表第五

兵犯罪種別一覽表



挿表第六

軍屬犯罪罪種別一覽表



更ニ之ヲ犯罪ノ内容ニ就キ觀察スルニ
1, 志氣沮喪犯

志氣沮喪犯ハ總數一、〇六六名ニシテ犯罪總數ノ二三、四%第二位ヲ占メアルカ之ヲ軍別ニ觀レハ次表ノ如ク

考 備	志氣沮喪犯ノ軍別比較表					
	計	南 東	南 方	支 那	關 東	内 地
指數ハ千分比ヲ示ス	計	三 七		三 六	一	
	奔 敵					
	逃	一、〇三三	六	一 一 七	一 五 六	六 六 九
	亡	〇・三五		〇・一六	〇・二四	〇・八七
	計	一、〇六六	六	一 五 三	一 五 七	六 六 九
	指 數	〇・三六		〇・二二	〇・二四	〇・八七

内地カ其ノ大部ヲ占メ關東軍、支那、南方、南東方面之ニ次キアルカ最モ忌ムヘキ奔敵カ支那ニ多發シアルハ特ニ

注意ヲ要スル所ナリ
支那ニ於ケル奔敵ノ多發シアル原因中、中共ノ思想的影響ニ基クモノ尠カラサルヲ以テ之カ對策ヲ適切ナラシメ之カ絶滅ヲ期シ特ニ他ニ波及セシメサル如ク注意ヲ要ス尙之ヲ階級別ニ觀レハ

將校	一六名 (〇・一〇)
下士官	二九名 (〇・〇九)
兵	六一九名 (〇・〇三)
軍屬	四〇二名 (〇・〇二)

ノ如ク其ノ大部分ハ兵、軍屬ニ於テ敢行セラレアルモ將校亦比率ニ於テ最モ多キハ遺憾トスル所ナリ
將兵ノ志氣ヲ昂揚スルハ必勝獲得ノ爲特ニ重要ナルヲ肝銘シ決死敢闘任務完遂ノ精神要素ノ陶冶鍛鍊ニ一段ノ努力ヲ要スルモノト認ム

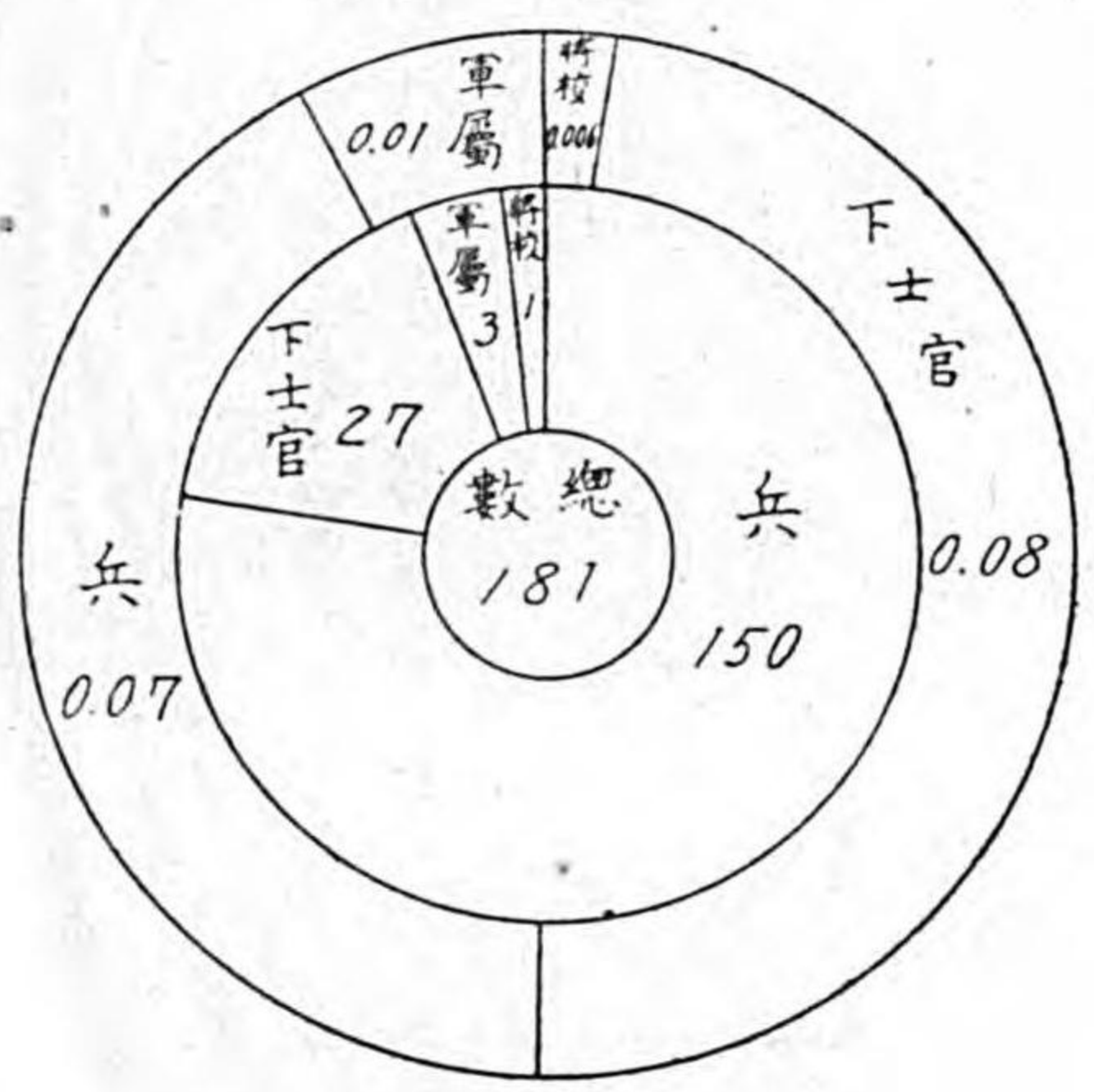
2、指揮權冒濫犯

指揮權冒濫犯ハ一八一一名(〇・〇六)ニシテ辱職ノ一七九名(〇・〇六)、擅權二名ナルガ之ヲ軍別階級別ニ觀レハ左圖ノ如ク總數指數共ニ内地支那ニ多發シ總數ニ於テ兵カ七九%弱ヲ占メアルモ指數的ニ觀レハ下士官ニ於テ最モ多發シアリ下士官ノ精強ヲ要スルヤ大ナルモノアリ

圖 覽 一 別 域 地



圖 覽 一 別 級 階



摘要
一、外側圓内ノ數字ハ指數(千分比)ヲ示ス
二、將校中ニハ准士官見習士官ヲ含ム

3、對上官犯

軍紀犯中最モ惡質ナル對上官犯ハ二九二名ニシテ依然減少ヲ見ス

考 備	指 數	軍 區 分		人員 指數	人員 指數	人員 指數	人員 指數	人員 指數	人員 指數	人員 指數	人員 指數	人員 指數
		內 地	支 那									
總 計	八〇〇三	六〇〇二	二〇〇一	七四〇三	二七	二九〇二	九	四〇〇二	三	三	二五〇一〇	二五〇一〇
南 東	六〇〇二	二	二五〇〇三	二	二	二	三	一	一	三	三〇〇五	三〇〇五
南 方	二〇〇三	二五〇〇三	三〇〇三	二五〇〇四	四	一七〇〇四	二	六	六	二	六	六
支 那	一八〇〇三	二五〇〇四	三〇〇三	二五〇〇四	四	六	四	二〇〇二	二〇〇二	四	四	七〇〇二
關 東	一八〇〇四	二〇〇三	二〇〇三	二〇〇三	六	六	六	六	六	八	四	四〇〇六
內 地	二六〇〇三	二〇〇三	一〇〇二	一〇〇二	六	六	一	一五〇二	一五〇二	一〇〇二	七	八〇〇二
計	八〇〇三	七四〇三	二七	二九〇二	九	四〇〇二	三	三	二	三	二五〇一〇	二五〇一〇

ノ如ク指數ニ於テ内地、支那、南方軍ニ多發シアリ尙犯情ヨリ考察スルニ黨與犯ノ多發殊ニ上官殺ノ惡質犯多發シ
アルハ嚴ニ戒心ヲ加フルノ要アリ
更ニ之ヲ階級別ヨリ觀レハ

- 將 校 一二名 (〇・〇七)
- 下 士 官 四八名 (〇・二)
- 兵 一六九名 (〇・〇八)
- 軍 屬 三〇名 (〇・一四)

ノ如ク總數ニ於テ兵ノ犯行其ノ大部ヲ占メアルモ幹部特ニ下士官ニ於テ指數特ニ大ナルハ遺憾トスル所ナリ
尙被害者タル上官ノ身分別ニ觀察スレハ直屬上官ニ對スルモノ六二名ニシテ昨年度一七名ニ比シ約三倍強ノ激増ヲ
見タルハ極メテ遺憾トスル所ナリ

4、物慾犯

物慾犯八一、六二一名(犯罪總數ノ三五・七%)ニシテ其ノ首位ヲ占メアルカ之ヲ軍別ニ觀レハ内地八八五名(一・二
〇)カ總數指數共ニ絶對多數ヲ占メ支那二六〇名(〇・三八)、滿洲二二四名(〇・三三)、南方一六三名(〇・三四)、
南方八九名(〇・三三)之ニ次キアリ尙主要犯罪ヲ觀レハ

- 竊 盜 八一七名
- 賭 博 三三一一名
- 橫 領 一八八名
- 等最モ多ク
- 詐 欺 九〇名
- 收(贈)賄 七八名

公(私)文書
偽造行使

四五名

贓物

二五名

之ニ次ク更ニ之ヲ階級別ヨリ觀ルニ

將校

六一名 (〇・四〇)

將校ニハ准士官、見習士官ヲ含ム

下士官

一二六名 (〇・三八)

兵

五九五名 (〇・二八)

軍屬

八三九名 (二・九〇)

ニシテ總數、指數共軍屬最大ナルト幹部特ニ將校ニ於ケル此ノ種犯罪ノ多發ハ戒心ヲ要スル所ナリ

5、對住民犯

對住民犯ハ二八五名(〇・〇一)ニシテ軍別ニ觀レハ在支軍ノ二〇八名(〇・二九)、最モ多ク南方五〇名(〇・一〇)、

滿洲二五名(〇・〇三)ノ順位ナルガ更ニ之ヲ罪種別ニ觀レハ左圖ニ示ス如ク掠奪、戰地強姦等ノ惡質事犯多發シア

ルハ注意ヲ要スル所ナリ特ニ在支軍ニ此ノ種犯罪ノ多發シアルト該方面將兵ノ對住民感道德感ノ刷新向上ヲ要スル

モノアリ

一張添附

考 備	總 計		係 關								
	總 計	應 召	現 役	其 他		舉行、學論、開學ヲナス		素 行 不 修		上官ニ對シテ當ヲ得サル言動ヲナス	
				應 召	現 役	應 召	現 役	應 召	現 役	應 召	現 役
一、本表ハ戰時陸軍報告規程ニ依ル 二、將校中ニハ准士官、見習士官ヲ、下士官中ニハ幹部候補生ヲ、兵現役中ニハ補充兵ヲ合ム 三、總計中()内ノ數字ハ指數ヲ、將校、下士官總計中()内ノ數字ハ懲罰總計中ヨリ責任罰ヲ除キタル數及其ノ指數ヲ示ス	1,435	665	770	0	7	11				1	1
	1,992	823	1,169		15	7	2	4	2		
	2,102	1,174	928	8	19	14				1	1
	998	501	494	1	8	8	1	0	1	2	
	6,524 (49.9) (2,633) (17.8)	3,163	3,361	10	44	40	3	4	5	4	
	1,261	426	835		4	10					1
	2,166	605	1,561	2	2	31	1	5	1	7	
	2,272	535	1,737	2	15			5	1	8	
	917	306	611	2	10	14	0	1	0	1	
	6,616 (19.8) (5,502) (19.5)	1,872	4,744	6	31	55	1	11	2	17	
	2,031	345	1,686		11	21		6	1	9	
	3,347	566	2,781	2	21	46		4	2	8	
	4,412	206	4,206	3	7	136		1	1	28	
	1,463	377	1,086	3	26	62	0	0	0	3	
	11,223 (5.2)	1,494	9,729	8	65	265	0	11	4	50	
	24,368 (9.4)	7,214	17,154	10	503		30		82		
	76				1						
444				21		6		6			
546				47				7			
387				44				1			
1,453 (0.8)				116		8		13			

第二、雜

註 昭和十八年度主要犯罪事例ハ既ニ軍紀風紀要注意事例集ニ揭示シアルヲ以テ重複ヲ避ケ
其ノ後ノ主要事例ヲ集録セリ

赴キタル際折柄飲酒中ノ同班上等兵出羽武雄ヨリ「他所ノ班ニ來テオダヲ上ゲルナ」ト云ハレタルニ甚シク憤激シ衆力ヲ以テ之ニ報復セムモノト決意シ當時下士官室ニ於テ飲酒中ノ石山、小野寺ニ對シ之カ報復手段ノ指示ヲ求ムヘク事ノ顛末ヲ告ケタルトコロ石山ハ班員ニ對シ「氣ノ利イタ者、四、五人行ケ」ト指示シタレハ之ニ應シテ兵四相續イテ右第十四内務班ニ押掛ケ飲酒中ノ出羽上等兵ヲ毆打傷害シ或ハ所携ノ短刀ヲ拔キ放チテ右出羽ニ加勢セムトノ氣配ヲ示セル班員ヲ威嚇シ又ハ班員ノ監視見張ヲナシ稍、遅レテ來班シタル右石山ト共ニ多衆聚合シテ暴行、傷害、脅迫ヲ加フル等ノ狼藉ヲ極メタリ

二 右多數聚合暴行等事件ノ顛末ヲ其ノ翌日承知シタル所屬部隊殘留隊長武田中尉ハ意外ニモ多數ノ惡質要注意兵カ轉屬シ來リタルニ驚愕スルト共ニ之カ對策ニ關心シ爾後ノ動靜ヲ嚴重ニ監視中同月十八日二十時三十分頃所屬部隊炊事場ニ於テ水汲ミニ赴キタル石山等ト同班ノ初年兵瓦谷二等兵カ空腹ノ爲班内ニ於テ炊爨スヘク右炊事場ヨリ約三合餘ノ米ヲ竊カニ持歸ラントセルヲ炊事當番兵ニ發見セラレタル上石黒某ヨリ毆打抑留セラレタルヲ知リタル兵數名ハ相前後シテ前記炊事場ニ到リ炊事掛下士官軍曹狩野三雄ト折衝ノ末漸ク前記瓦谷ノ宥免ヲ得テ同所ヲ退去セントシタルトコロ之ヨリ前殘留隊長ハ前示十二日夜ノ第十四内務班ニ於ケル事故ニ鑑ミ轉屬者ノ素質調査ヲナシタル結果此等ハ轉屬前ノ部隊ニ於テ酒保及炊事場ヨリ非常手段ヲ以テ物品ノ搬出ヲナス等ノ非違行爲ヲ頻繁ニ敢行シタル事實アルノミナラス其ノ性格一般ニ粗暴ニシテ暴力沙汰ニ及フヲ意ニ介セサル不逞ノ輩カ多數包含セラレアルヲ知り依テ酒保、炊事場ニ於ケル萬一ノ事態ニ備フル爲週番司令ノ指揮下ニ入レテ待機セシメアリタル警戒兵約二十名カ炊事當番兵ノ急報ニヨリ著剣ノ上炊事場ニ至リ週番司令ノ命ニ依リ退去セントスル前記兵等ヲ阻止シタルニ激昂シ右警戒兵ハ炊事班長タル右狩野軍曹ノ命ニヨリ著剣シテ退

去ヲ阻止シアルモノナリト誤解スルニ至リ同軍曹ニ對シ其ノ處置ノ不當ナルヲ鳴ラシテ讓ラス双方ノ空氣ハ頓ニ尖鋭化スルニ至リ其ノ頃一方班内ニアリシ石山ハ右ノ狀況ヲ承知スルヤ事ハ我ニ有利ナリト安斷シ小野寺ト共ニ所屬藤崎隊兵員ヲ全部炊事場ニ集合セシメ多衆ノ威力ニヨリ炊事勤務兵ヲ威嚇シ轉屬者ノ勢威ヲ知ラシメ以テ一舉ニ事ヲ我ニ有利ニ解決セムコトヲ決意シ相前後シテ炊事場ニ到リ石山ハ炊事班長ヲ求メテ腕捲リヲシツツ「班長ハドレダ米ノ二合ヤ三合位デ著剣スルトハ何事ヲ淺草デ人ヲ五人モ六人モ斬ツタ石山ヲ知ラヌカ」ト怒號シテ炊事事務室ニ乘リ込ミ小野寺亦「米ヲ僅カ益ンダ位デ著剣スルトハ何事ダ」ト呼號シツツ事務室ニ押シ入り其ノ頃炊事場内外ハ前示指示ニ依リ數十名ノ自隊兵員集合シアリテ孰レモ多勢ヲ恃ミテ「ヤツチマヘ、ヤツチマヘ」ト炊事勤務兵又ハ警戒兵ヲ威嚇スル等喧騒ヲ極メ事態ハ一觸即發ノ危急ニ迫リシカ其ノ頃右紛爭ヲ聞知シテ現狀ニ駆付ケタル所屬週番士官中尉今泉傳及週番司令中尉石川棟男ヨリ交々説得セラレ未タ釋然タラサリシモ結局週番士官ニ於テ責任ヲ以テ解決スルニ付解散スヘキ旨命セラレテ全部退散シタルモノナレトモ其ノ後右第五内務班ニ於テハ班員及他班員モ加ハリテ交々炊事場ニ於ケル警戒兵ノ著剣セル不法ヲ鳴ラシ中ニハ再度押掛ケ其ノ理由ヲ糾彈スヘシト喚クモノモアリテ騒然タリシ折週番司令ト打合セテ了シ各班ヲ巡察シテ第五内務班ニ到リシ週番士官今泉中尉ヨリ速カニ就寢セヨト注意セラレ諒解ノ上消燈シタル爲同中尉ハ週番司令ニ右ノ經過ヲ報告スヘク同所ヲ立去リタリ今泉中尉ノ立去リタル直後再ヒ多數ノ兵カ炊事場内外ニ殺到シ其ノ數五十數名ヲ超ヘ狩野軍曹ニ對シ警戒兵ニ著剣セシメタルノ理由ヲ問ヒ遂ニ互ニ其ノ多衆ヲ恃ミテ居合セタル炊事勤務兵數名ヲ手ニテ亂打シ或ハ足ニテ蹴リ其ノ他器物ヲ以テ毆打シ因テ傷害ヲ負ハシメタルノ外室内ノ器物ヲ叩キ壞ス等ノ亂暴藉狼ノ限リヲ盡シアル眞最中急報ニ依リ馳付ケタル前示今泉中尉及石川中尉ニヨリ漸

赴キタル際折柄飲酒中ノ同班上等兵出羽武雄ヨリ「他所ノ班ニ來テオダラ上ゾレトミハ」ト云フ

ク制止セラレタリ

第二 更ニ右滿洲第一九三九部隊在隊中同部隊ノ某方面ニ轉用セラルルコトトナルヤ防護上ノ見地ヨリ下士官兵ノ外出ヲ許可セザリシトコロ夜間擅ニ相通謀結託シテ脱槽ノ上遊興セムコトヲ企テ飲酒ノ上兵舎裏土手ヲ乘越エ脱槽シ約八軒ノ距離ニアアル富拉爾基街ニ到リ或ハ日、鮮系料理店ニ或ハ軍慰安所ニ於テ遊興ノ末翌朝起床時限頃ニ竊カニ土手ヲ乘越エテ歸隊シタリ

第三 兵四名ハ滿洲第一九四一部隊ニ轉屬トナリタル翌十二月十二日十九時頃相共謀シテ施錠シアル同部隊炊事倉庫ヲ右野中ノ所持セル合鍵ヲ以テ開扉ノ上同庫内ヨリ白米吠入一俵及乾麵麵十八袋ヲ竊取ノ上内務班ニ隠匿シ班員ト共ニ喫食シタリ

第四 以上ノ外更ニ

一 石山光四郎、小野寺一郎ハ常習トシテ同十八年九月中旬頃ヨリ同年十二月十六日頃迄ノ間數十回ニ互リ被告人橋本清以下約十數名ト自班又ハ他班ニ於テ夜間又ハ晝間花札ヲ使用シテ一回十錢乃至三十圓ヲ賭シ俗ニ「追丁株」ト稱スル賭錢博打ヲ爲シ

二 被告人石井敏造以下七十名ハ夫々同十八年九月中旬頃ヨリ同年十二月十九日迄ノ間二回乃至數十回ニ互リ相互ニ又ハ石山、小野寺共ノ他數名ノ兵ト内務班内又ハ將校浴場等ニ於テ夜間又ハ晝間花札ヲ使用シテ一回五錢乃至五十圓ヲ賭シ俗ニ「追丁株」ト稱スル賭錢博打ヲ爲シタリ

○所 見

本事件ハ久シキニ互リ軍隊内ヲ脱槽、賭博等ノ常習場タラシメタルノミナラス私闘場ト迄化シ軍紀ヲ極度ニ紊亂シ

特ニ 天皇親率ノ大義ヲ冒瀆シタルモノナリ軍隊精強策特ニ至嚴ナル軍紀ノ確立振作ノ爲ノ具體策ノ要切實ナルモノアリ細部ニ關スル所見ヲ述フレハ左ノ如シ

一 幹部ノ統率力弱甚シキハ本件發生ノ重大素因ナリ不軍紀行爲ヲ目撃聞知シナカラ看過默許シ或ハ妥協懇願等ノ姑息手段ニ終始シ遂ニ兵ニ乘セララルカ如キハ現下一部軍隊ノ實情ヲ表現セルモノニシテ重大事態ノ發生ヲ恐ルルモノナリ

二 前科數犯ノ要注意者ノ取扱極メテ不良ニシテ此ノ如キ兵ニ對シ骨肉ノ至情ヲ以テ訓化教導スルノ熱意ニ乏シク所謂持テ餘シ者トシテ轉屬ニ次クニ轉屬ヲ以テシタルハ屢次ニ互ル上司ノ注意ヲ實行セサルモノニシテ軍紀ノ弛緩セル實證ナリ

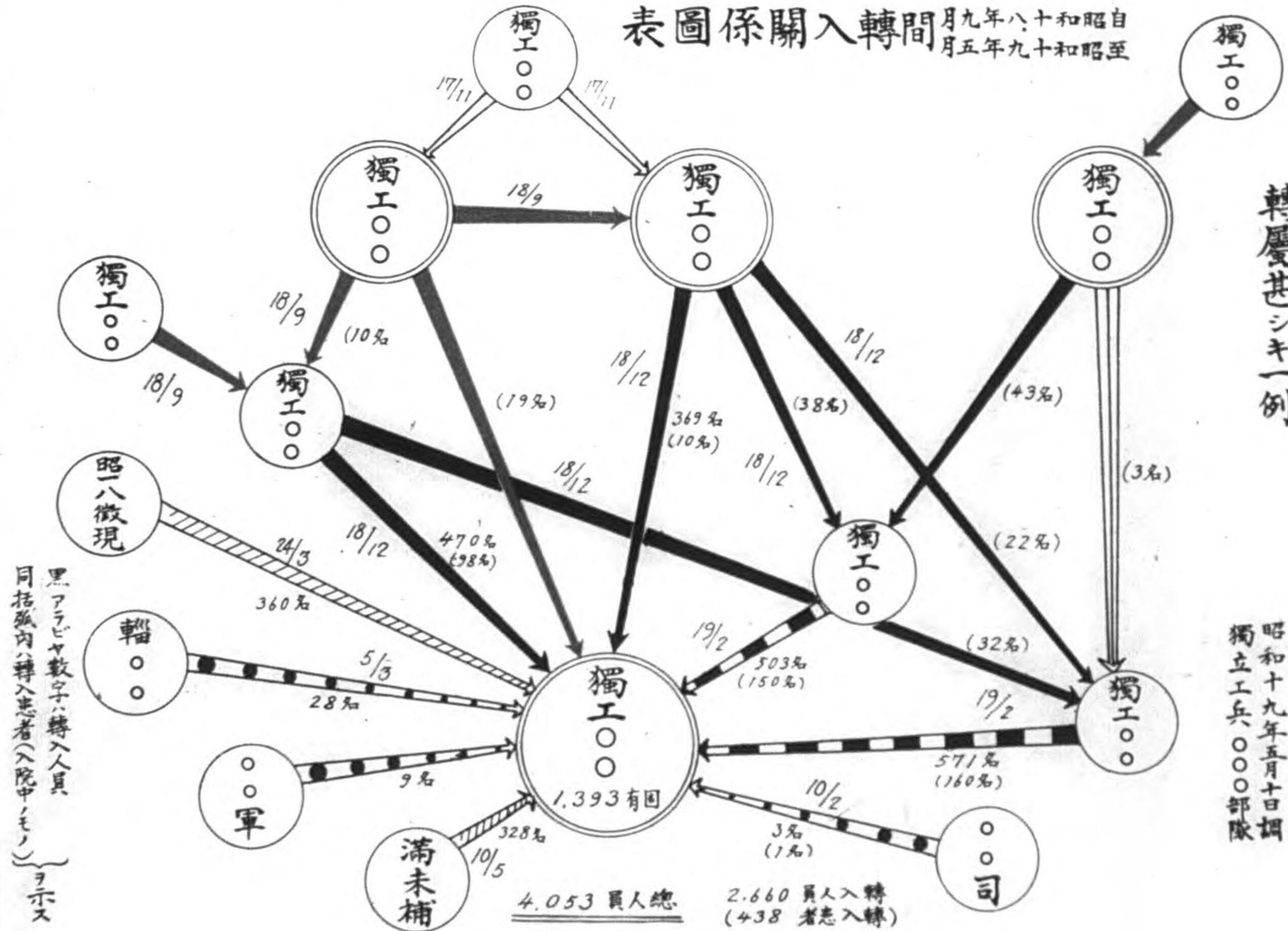
三 久シキニ互リ賭博、脱槽等ノ不軍紀行爲ヲ敢行シアリタルハ内務ノ履行極メテ不良ナルノ結果ナリ嚴正ナル内務ノ履行ハ軍紀ヲ振作シ軍隊ヲ精強ナラシムル爲重視スルノ要大ナルモノアリ

四 數十名ノ多衆ヲ以テ私闘ヲ敢テシ上官暴行ノ舉ニ出テ特ニ將校ノ制止ノ命令徹底セサルカ如キハ皇軍タルノ實ヲ失ヒタルモノナリ

昭和十八年九月至昭和十九年五月間轉入關係圖表

參考

轉屬甚シキ一例



黒アラビヤ數字ハ轉入人員
同括弧内ハ轉入患者(入院中モノ)
ヲ示ス

5400

TRANSLATION BY S. SHIMIZU

RECEIVED July 31, 1947

CHECKED BY K. Muraoka COMPLETED 19 Aug. 1947

TYPED BY _____ COMPLETED _____

LETTER.
VAN ABT'S

5400

特選部事務課

表紙

三、西部第十六部隊ニ於テ軍隊ノ神聖ヲ冒瀆シ之ヲ全ク地方化シタル事例

○檢舉處置人員

一、事件送致.....一〇八名

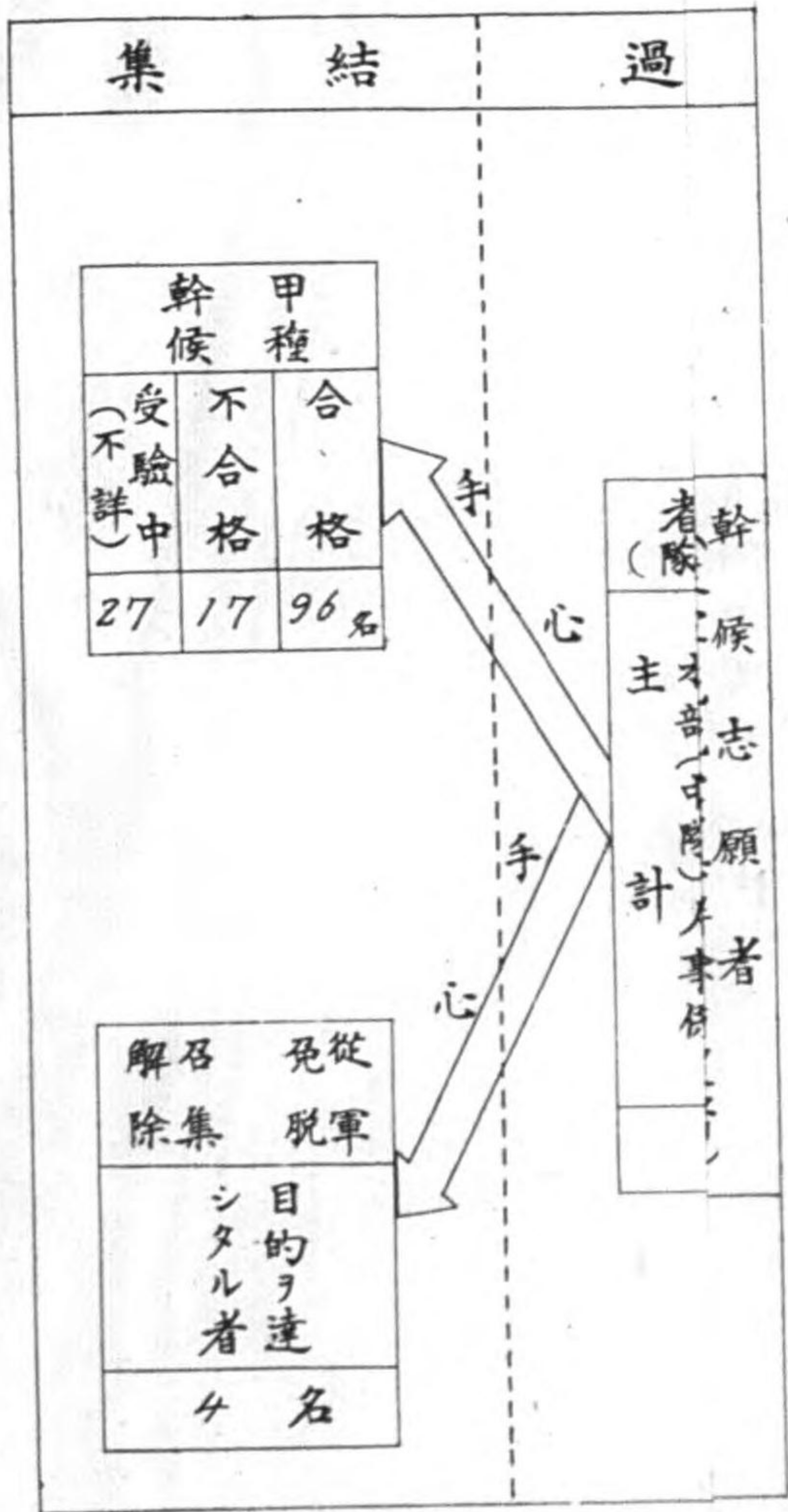
1、收賄者.....一九名

少	大	中	少	准	曹
佐	尉	尉	尉	尉	長
一名	四名	九名	二名	二名	一名

2、贈收賄並贈收賄斡旋者.....一八名

在郷軍人	軍屬	常
八名	四名	六名

3、贈賄(主トシテ常人).....七一名



二、行政處分(非違通報、説諭)…………… 六三名

○事件ノ概要
本事件ノ概要ハ次表ノ如シ

集 結

過 經 賄 收

過 經 賄

贈

幹 甲		合 格
候	種	
(受驗中 不詳)	不 合 格	
27	17	96名

解 召 免 從	除 集 脫 軍
シタル者	目的ヲ達
4	名

者 賄 收	(隊部六一西)
主 本 軍 中 幹 副	部 部 部 隊 候 官
計 部 (中隊) 醫 長 助 委 員	人事保 計 人事保 計
19	名

者 旋 幹 側 軍	(含臨時囑託三)
熊 熊 熊	師 聯 師 司 軍 屬
7	名

者 旋 幹 人 常	保 部 當 テ 西 部 第 十 六
商 在 鄉 將 校 軍 關	人 等 在 隊 セ ル
11	名

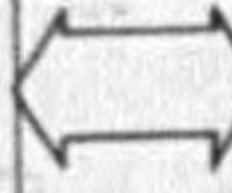
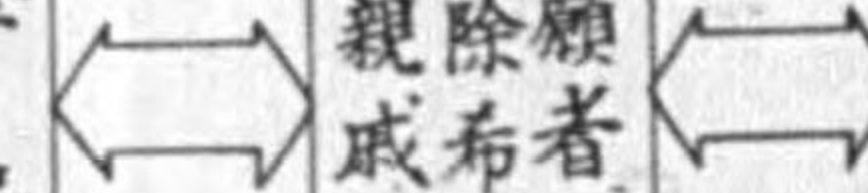
區 分	額	贈 賄 金 品
現金	7300 00	贈 賄 ノ 趣 旨 幹 候 合 格 從 軍 免 脫 召 集 解 除 方 依 頼 並 ニ 好 意 ア ル 取 扱 ヲ 受 ケ 報 酬 的 ヲ 以 テ 之 カル 目 的 ヲ 報 酬 又 ハ 謝 禮 ト シ テ
物品	788 15	
響應	8167 52	
合計	16255 67	

者 賄 贈	父 兄 召 集 解 除 希 望 者 親 戚 知 人
71	名

(幹 候 志 願 者 從 軍 免 脫 召 集 解 除 希 望 者)

手 心 手 心

間 接 要 求 直 接 要 求 間 接



二、行政處分(非違通報、説諭)…………… 六三名

○事件ノ概要

本事件ノ概要ハ次表ノ如シ

○犯行ノ原因動機

一、一般的原因ト認メラルル事項

1、地方的慣習、虚禮カ漸次部隊内ニ浸潤瀰漫ス

昭和十三年ヨリ昭和十五年迄部隊本部人事係ノ職ニ在リシ増田准尉(現在豫少尉京都武専助教授)ハ隊内ニ於テ
剣道教師及昇段審査員ヲ爲シ將校以下ノ昇段審査ニ大ナル權威ヲ有シ各種ノ便宜ヲ與ヘアリタリ之等ノ謝禮乃
至昇段祝トシテ受檢者ヨリ金品ノ響應ヲ受ケアリタルカ同准尉ノ後ヲ繼キ部隊本部人事係(幹候委員助手)トナ
レル北村曹長(當時熊本市所在保險會社勤務)ハ當時ノ部隊長某大佐ノ寵愛ヲ受ケ之ニ増長シ常人側ヨリ幹候合
格方ノ斡旋依頼ヲ受タルヤ自己ノ慾望ヲ滿タサンカ爲幹部監督不行届ナルニ乘シ其ノ依頼ニ應ヘ密カニ部隊ノ
人事書類ニ加筆スルニ至リ之カ弊風ハ更ニ同人ノ後任者ニ傳ハリ事件ハ加速度的ニ擴大ス

2、積年ニ互ル地方政治ノ陋習即チ金力、鬭争ノ部隊内浸潤

熊本ハ尙武ノ氣風旺ンナルモ一面ニ於テ政黨政治ニ依ル政争ノ餘弊現在ニ至ルモ拂拭セラレアラス
本事件ニ於テ代議士其ノ他政治關係者ノ介在セルハ之ヲ實證スルモノナリ

3、一般學校ノ入學試験時ニ於ケル情實觀念ノ軍隊内波及風評並ニ投書等ヨリ觀察スルニ巷間殊ニ在館諸學校教
職員ト入學志願者父兄間ニ於ケル入學試験ヲ繞ル演職事件ノ伏在ハ想像ニ難カラス

本事件關係者ニ於テモ學校配屬將校、教練教師及學校教職員又ハ其ノ前歴アル者合計七名アリ

4、戰爭下戰死率高キ下級者ニ於ケル出職忌避

幹候合格ヲ賄賂ヲ以テ達成セント圖リシハ名譽ヲ得ントシタル以外下士官、兵ノ戰死率高キヲ慮リ下級者ノ出

戦ヲ忌避シアリタル傾向ヲ觀取セラル

二、直接原因ト認めラルル事項

直接原因ト認めラルル主ナル事項ハ次ノ如シ

1、收賄者

○金錢又ハ物慾ニ驅ラレ又ハ遊興費ヲ得ントシ

○賄賂者竝ニ斡旋者ノ誘惑、情誼等ニ迷ハサレ

○前任者竝ニ先輩同僚ノ惡習ニ倣ヒ

2、斡旋者

○親戚、知己等面識者ニ對スル情誼ニ捉ハレ

○金錢又ハ物慾ニ驅ラレ又ハ遊興、生活費ヲ得ントシ

3、賄賂者

○子弟等ヲ皇軍將校タラシメントスル榮譽心ト肉身ニ對スル誤レル愛情ヨリ

○幹候合格ニ多額ノ運動資金ヲ要ストノ風評ヲ聞知シ

○斡旋者竝ニ收賄者ノ勸誘乃至策動ヨリ

○本事件ノ特性

一、人的觀察

1、收賄者ノ大部ハ豫備役(幹候出身)又ハ准尉ヨリノ特別補充將校ニシテ幹候志願者ト出身地ヲ共ニスル郷土部

隊ナルコト

2、賄賂者ハ資産乃至知識階級ニシテ地方有力者多ク大部ハ熊本市及其ノ近郊ニ居住スルモノナルコト

二、原因動機の觀察

1、事件ニ政治的影響性アリ

本事件ニハ往時ノ政争ヲ反映セルヲ觀ハレタルノミナラス某市長ヲ糾彈セントスル政敵者ノ策動アリタリ

2、一般教育界ノ陋習ヲ受ク

前述ノ如ク一般教育界ノ弊習カ軍隊内ニ浸潤瀰漫セルヲ認めラル

3、犯行ノ動機ニ反厭戰的思想ヲ包藏セルモノアリ

幹部候補生合格、從軍免脱、召集解除等戰爭下戰死率高キ下級者ノ出戰忌避ヲ認ム

三、犯行ノ性格的觀察

1、氣脈ヲ通スル集團組織的ナリ

2、軍隊生活ニ體驗ヲ有スル惡質仲介者ノ存在

3、表面ヲ一般ノ儀禮ト偽裝スル潜行的犯行

○所 見

一、本件ニ類スル犯行ハ全軍的ニ潛行シアルモノト判断セラルル所ニシテ神聖ナル軍隊カ時流ニ抗シ得ス逐次腐敗

セントスルノ一傾向ナリ

二、上正シカラサレハ下之ニ倣フノ弊アル如ク本件ニ就テモ上級部隊長ニ於テ一隊統率ノ重責ヲ肝銘シ毅然タル態

度ト處置ヲナスニ於テハ此ノ種不祥事件ノ發生ヲ未然ニ防止シ皇軍ノ本領ヲ發揮シ得タルヘシ

三、本件ニ於テ特ニ注意ヲ要スルハ集團的組織的永續的ナル點ニシテ此ノ如キ惡質履行力長年月ニ互リ隱蔽セラレタルハ洵ニ遺憾トスル所ナリ上級司令部以下軍紀振作ニ關スル努力不十分ナリシ實證ナリ

○處分

審理中

四、大東塾ノ對軍部策動ノ現況

(昭和十九年五月陸密第二一四五號參照)

東京都澁谷區代々木西原町九五七

大東塾々頭 影山正治

(當三十七年)

ハ年少ノ頃ヨリ維新傳記ニ興味ヲ有シ大化ノ改新、建武ノ中興、明治維新等ノ史實竝ニ古事記、日本書紀等神話ノ研究ニ没頭シ居ル中途ニ矯激ナル革新思想ヲ抱持スルニ至リ神兵隊事件ニ際シテハ國學院大學生數名ヲ率キ之ニ參加シ又昭和十五年ニ於テハ同志ヲ指揮シ米内首相以下ノ重臣暗殺ヲ企圖(所謂七、五事件)セルカ現在ハ「大東塾」及「新國學協會」ヲ中心ニ同志約三十七名、會員約五百名ヲ擁スル一陣容ヲ形成シ「生命奉還」「天皇歸一」ヲ高唱シ「我等コソ昭和維新ノ奉行者ナリ」ト自己ノ主張貫徹ニ邁進シアリテ右翼陣營中ノ直接行動派ト目サレアリ

而シテ最近戰爭ノ長期化、戰況ノ一部膠著ニ伴ヒ「現内閣ハ閣僚中ニ何等期待スヘキ人物ナク只僅カニ軍ヲ背景トスル東條首相ノ力ノミニ依リ辛シテ存續シアリ隨ツテ其ノ政策ハ動モスレハ獨善狹量ニシテ而モ彌縫的、糊塗的ニ終始シアルヲ以テ何等期待スヘキモノナシ而モ國內ニハ今尙親英美的乃至自己主義的反國策分子存在シ念頭ニ國家ナク只管自己ノ利益ニノミ終始セントシ聖戰ノ完遂ヲ著シタ妨害シアリ思フニ現下ノ戰局ヲ背負ツテ立ツハ軍部以外ニナキヲ以テ軍ハ實ニ外敵ノ擊滅ニ專念スルノミナラス宜數ク國內ニ對シテモ尊皇攘夷ノ精神ヲ發揮シ昭和維新ノ完遂ヲ期スヘキナリ」トナシ塾同人ノ入隊ヲ契機トシ或ハ著書機關誌ノ郵送等ノ方法ニ依リ軍人軍屬就中青年將校ノ獲得ヲ策シツツアルノミナラス其ノ傾向ハ最近頗ニ活潑トナリツツアリ

即チ四月一日現在

○熱同人或ハ熱出身者ニシテ在隊中ノ者ハ

陸軍	一九名
海軍	三名
計	二二名

アリ之等ハ機會ヲ索メテ大東塾或ハ新國學協會ノ主義理念ヲ強調シ同志ノ獲得ニ努メアリ

○塾ノ主義主張ニ共鳴シ現ニ通信連絡ヲ爲シ或ハ嘗テ接觸セシコトアル軍人軍屬ニシテ憲兵ノ知得セルモノハ

陸軍	將校生徒	一六名
陸軍	下士官兵	一一七名
陸軍	軍屬	八名
陸軍	計	一六三名
海軍	下士官兵	三一一名
海軍	軍屬	二名
海軍	計	三六名
計		一九九名

ナルカ其ノ中ニハ影山ニ私淑シ同志トシテ之ト行動ヲ共ニセント決意シ或ハ相當強度ノ思想的啓蒙ヲ受ケアルモノアル現況ナリ

而シテ右翼分子ノ對軍思想策動ハ二、二六事件以後ニ於ケル軍ノ適切ナル措置ニ依リ封殺セラレ從ツテ現役軍人ノ不穩煽激行動モ昭和十五年ニ於ケル伊藤少佐ノ神戸領事館襲撃未遂事件以來全ク其ノ跡ヲ絶チ何レモ本分ヲ恪遵シテ第一線ニ於ケル戰鬥ニ或ハ國內ノ警備乃至教育ニ只管軍務ニ精勵シアリテ特ニ注意ヲ要スル事象ヲ認メサリシカ彼上ノ如キ大東塾最近ノ軍人ニ對スル策動ハ之ヲ二、二六事件前ニ於ケル右翼ノ動向ニ鑑ミルトキ輕視ヲ許ササルモノアリ就中現戰局下ニ於ケル國內ノ諸情勢ニ照シ而モ今後戰爭ノ長期化ニ伴ヒ一部ニ於テ政府ノ戰爭指導其他諸政策ニ對スル批判的論議或ハ和平翼求氣運乃至策動ノ接觸ナキヲ保シ難キ客觀情勢ヲ想フ時斯種煽激分子ノ軍人ニ對スル思想策動ハ其ノ及ホスヘキ影響ノ甚大ナルニ鑑ミ嚴ニ注意警戒ヲ要スルモノアリト認ム

最近ニ於ケル大東塾ノ對軍策動竝ニ其ノ影響次ノ如シ

一、對軍部策動ノ一端

1、塾生ノ入隊間ニ於ケル同志獲得策動

塾生 武藤包州

ハ昨年十二月一日西部第〇〇部隊ニ應召三月九日除隊セルモノナルカ在隊間左ノ如ク策動セリ

○某見習士官ニ對シ

見習士官某ハ中隊長ヨリ特ニ武藤ノ勳靜觀察ヲ命セラレアリシカ武藤ハ本名カ同郷ニシテ殊ニ中學時代思想方面ノ雜誌ヲ購讀シアリタルヲ想起シ何等カノ方法ヲ以テ接近セント密心中偶一月中旬同見習士官ヨリ大東塾宛ノ手紙ニ同シ呼出ヲ受ケ大東塾ノ内容ヲ訊サルルヤ

「大東塾ノ運動ハ歐ニ依ル思想啓蒙ナリ」

ト前旨シ大東塾ノ現行在ヒツツアル運動狀況ヲ説明其ノ正シキヲ主張シ暗ニ加入ヲ懇懇セルカ更ニ承諾ヲ受テ
ル事ナク無斷在東京大東塾ニ連絡シ同見習士官宛機關誌「ひむがし」一ヶ年分ヲ二月二十五日郵送越セシメタ
リ

○某准尉ニ對シ

某准尉ハ東京豫備士官學校ヨリ昨年十一月轉屬シ來リタルモノナルカ武藤ハ同准尉カ熱血性ニ富ミ劍道三段統
劍術二段ノ猛者ナルヲ見込ミ接近ノ機會ヲ窺ヒアリタル處一月十五日同准尉カ中隊ノ軍歌演習實施終了後居室
ニ歸リタル直後之ヲ訪問同准尉カ多忙ノタメ相手ニセサルヤ其ノ日ハ其ノ儘退室シ前記見習士官同様何等承諾
ヲ受クルコトナク無斷大東塾ニ連絡シ二月二十五日同准尉宛機關誌「ひむがし」一ヶ年分ヲ郵送越セシメタリ

2、軍病院内ニ於テ看護婦ヲ同志トシテ獲得更ニ入院患者ニ策動セシム

塾同人 川 口 喜 一

右ハ昭和十七年末戰傷ニ依リ〇〇陸軍病院ニ入院加療中院内ニ於テ大東塾ノ主義主張ノ宣傳啓蒙ヲ策スルヤ之
カ爲ニハ先ツ看護婦ヲ利用スルニ如カストナシ當時自己ノ受持タリシ

日赤看護婦 鶴 卷 榮

カ文學ニ興味ヲ有シアルニ著目シ所持シアリタル

○ 御民われ (塾頭 影山正治 著)

○ 古典論 (塾同人 保田與重郎 著)

○ ひむがし (新國學協會機關誌)

等ヲ貸與セルカ之ニ興味ヲ覺エタル鶴卷ハ機關誌「ひむがし」一ヶ年分ノ購讀料ヲ前拂シテ註文スルト共ニ

○ 維新者ノ信條 (影山正治 著)

○ 歌道維新論 (右 同)

其ノ他大東塾關係者ノ著書四冊ヲ購入購讀スルニ至レリ

而シテ川口ハ更ニ鶴卷看護婦ニ對シ

「大東塾ノ人テ貴女ニ面會シ度イ人カ居ルカ面會ニ來タラ會ツテ貰ヘルタラウカ?.....云々」
ト巧ミニ

塾同人 横 堀 謙 一

ヲ紹介シ面來横堀ハ前後八回ニ互リ病院ニ鶴卷ヲ訪問シ之カ獲得ニ努メタリ

○ 又昭和維新ハ經濟維新ナリトテ

「昭和維新ノ發端ハ明治維新ニアリ明治維新ニ於テハ政治方面ノミ維新サレタカ昭和ノ御代ニ於テハ經濟方面
ノ維新カ斷行サレネハナラヌ」

「日本ノ國民ハマタノ、眞劍ニナツテ居ラナイ時局ヲ利用シテ私財ヲ肥スコト許リ考ヘテ居ル財閥カ澤山居ル
其ウ言ツタ人々カ眞ニ時局ヲ認識覺醒シ元寇ノ時ノ様ニ一丸トナツテ國難ニ當ル時コソ神風カ起ルノテアル
「アツツ島」始メ數回ニ互ル玉碎ハ神罰カ國民ハ唯泣キ悲シンテハ不可ナイソレカ神罰デアル事ニ氣付キ一日モ
早ク眞ノ日本人トシテ目覺ムヘキテアル云々」

等ト言葉巧ミニ思想啓蒙ヲ行ヒタルカ益、大東塾ノ指導精神ニ共鳴セル鶴卷看護婦ハ更ニ他ノ入院患者ニ機關誌

「ひむがし」ノ購讀ヲ獎メ大東塾ノ主義主張ヲ宣傳シアリタリ

(註) 一、川口喜一ハ現在召集解除セラレアリ

二、横堀謹一ハ其後召集ヲ受ケ現在館山海軍砲術學校ニ分遣中

三、鶴巻看護婦ノ動靜ニ關シテハ嚴視中ナリ

3、軍工廠内ニ於ケル軍工員ニ對スル策動

塾頭實弟 影山龍夫
塾生 大橋正明

ハ〇〇〇陸軍造兵廠〇〇〇製造所ニ夫々勤務シアリタル處兩名相謀リ同工場工員ニ對スル思想啓蒙ヲ企圖シ先ツ
工員中文學、讀書ニ趣味ヲ有シアル者ヲ物色シタル上塾發行ノ著書、機關誌ヲ貸與購讀セシメ之ニ傾心スル者ヲ
認ムルヤ塾主催ニ係ル研究會、座談會ニ出席ヲ獎ムル等積極的ニ運動ヲ爲シ遂ニ四名ノ共鳴者ヲ得タリ
而シテソノ中最モ感銘ヲ受ケタル

軍屬工員 西尾幸雄

(當二十年)

ハ屢、在豊橋市ノ影山正治實父影山庄平宅ヲ訪問シ其ノ指導ヲ受ケアリシカ塾頭敬慕ノ念昂スルヤ大東塾ニ入塾
シテ直接其ノ教ヲ受ケント客年十月二十二日影山正治カ實父宅ニ歸省シアルヲ聞知スルヤ往訪ノ上入塾ヲ懇願
シ
「現在勤務シテ居ル處ヨリ手カ切レタラ上京シテ來イ」

トノ返答ヲ得ルヤ益、決心ヲ固メ退所ノ方法ヲ考究シアリタルカ偶、塾同人藤原正志ヨリ「オ前カ決心シ本當ニ
入塾シヨウト思フナラハ入塾ノ道ハ自ラ開ケル筈タ」

ト聞カサレ遂ニ逃亡ヲ決意三月八日無断上京三月十一日大東塾ニ至レリ

而シテ大東塾ニ於テハ一先假入塾ノ身分トシ又影山庄平ハ正治ノ依頼ニ基キ四男英雄ヲ同伴西尾所屬ノ工場長ニ
面會ヲ求メテ西尾ノ解雇方交渉シタルモ拒絕セラレ西尾亦製造所側ノ命ニ依リ三月二十二日歸廠セリ

(註) 一、所屬製造所長ハ四月十一日西尾ヲ重疊倉ニ移シ又同シク感化ヲ受ケタル他ノ三名ヲ夫々諭示シテ

大東塾トノ關係ヲ断タシムルト共ニ影山龍夫ヲ解雇セリ

二、大橋正明ハ三月十七日教育召集ニ依リ中部第八部隊ニ入隊セリ

三、影山英雄ハ其後中部第四十九部隊ニ應召セリ

二、青年將校(含將校生徒)ニ及ホシタル特殊事例 (本年一月以降)

將校生徒十六名ハ現下ノ苛烈ナル戦局ニ處スヘキ將校タルノ信念確把ニ焦慮ノ餘リ影山ノ著書ヲ
翻讀其ノ思想ニ共鳴ス

士官候補生 第五十七期生 十名

(四月二十日陸士卒業)

豫科士官學校生徒 第五十八期生 二名

同 第五十九期生 四名

等ハ現下ノ苛烈ナル戦局ニ處ス可キ將校タルノ信念ヲ確把スヘク焦慮ノ餘リ學校幹部ノ訓育ニ懐ラス刺戟的且直裁

的ナル指導ヲ求メアリシ處或者ハ影山正治ノ著書「七、五事件ノ公判記録」ヲ翻譯シテ「彼等ハ尊皇絕對道ヲ實踐セ
ルモノナリ」ト敬服シ又或者ハ新國學協會機關紙「ひむがし」其ノ他影山ノ著書ヲ取讀シテ其ノ革新的國體觀ニ共鳴
シ其ノ中一部ノ者ハ外出時大東塾ニ影山ヲ訪問直接其ノ指導ヲ受クルニ至ル

某中尉ハ屢々大東塾ヲ訪問國家革新ノ急務ヲ論シ且影山ノ紹介ヲ得テ士官候補生ニ策動ス

○本部附 ○ 中 尉 (五四期)

ハ豫テヨリ國家及國軍ノ現狀ニ不滿ヲ抱キ同僚及部下等ニ「皇軍維新」昭和維新等ト革新ノ必要ヲ強調煽動シアリ
シカ昨年四月科學々校ニ分遣ノ爲内地ニ歸還スルヤ益、其ノ必要ヲ痛感スルニ至リ右翼偽裝共產主義者タル航空通
信學校附某曹長ト親交頻々同校ヲ訪ネテ下士官數十名ニ對シ軍紀風紀紊亂ノ實相ヲ捉ヘテ軍内革新ノ必要性ヲ強
調シ「之カ實現ノ爲ニハ階級ノ如何ヲ問ハス同憂具眼ノ士ハ相携ヘテ之カ革新ニ邁進スヘキナリ」トシ橫斷的結成ヲ
圖リ又屢々大東塾々頭影山正治其ノ他ノ右翼分子ヲ往訪シテ國家革新ノ急務ヲ論シ又大東塾ニ士官候補生ノ出入シ
アルヲ知ルヤ影山ノ紹介狀ヲ得テ士官學校ニ某候補生ヲ訪ネテ軍並國家ノ現狀ニ對スル不滿ヲ訴ヘ所謂皇軍「維新
建願」ノ爲同志ノ結束強化ヲ策ス

某中尉ハ塾同人ノ依頼ヲ受ケ僞名ヲ以テ士官學校ニ潛入ス

西部第〇〇部隊附 ○ 中 尉 (五四期)

ハ戰傷ノ爲歸郷療養中面識アル大東塾同人三浦義一ヲ伊豆温泉ノ別宅ニ訪問シ一月五日ヨリ同所竝ニ東京ノ本宅ニ
寄食セルカ其ノ間三浦ヨリ士官學校ニ於ケル大東塾關係士官候補生ノ處罰問題及士官候補生ノ對大東塾態度ノ打診
方依頼セラルルヤ一月十六日僞名ヲ以テ某候補生ニ面會ヲ求メ學校側ニ發見セラルルヤ垣間ヨリ逃走ス

三、軍人軍屬ノ塾宛通信狀況

昨年九月以降大東塾宛通信ヲ爲シタル在隊中ノ軍人軍屬ハ二百名ノ多數ニ上リアルカ其ノ中ニハ

○脱走シテ塾ト行動ヲ共ニセン

○自由ノ身ナレハ足下ニ馳セ參シ度シ

○千里離ルルモ一身同體、神勅奉行、尊皇討幕ニ邁進セン

○皇國本來ノ大悲願ニ殉シ度シ

等ト思想的ニ極メテ注意ヲ要スル通信ヲ爲シタルモノアリ而シテ之等ハ何レモ所屬長所定ノ檢閲ヲ受ケアラサルニ
鑑ミ塾關係者ノ通信ニ對シテハ特ニ注意ヲ要スルモノアリ
特殊ノ通信次ノ如シ
一身同體ノ決意ヲ披瀝セルモノ

〇〇第〇〇〇部隊 浦 川 尙 義

〇〇海軍病院 松 田 捨 二

前略 吾等神風連の義舉は血涙を以て之に殉ずる道を邁進し度いと思ふ軍隊生活も塾精神を以て一貫する覺悟で
す或場合には軍隊を脱走しても塾と共にあり度いと思つて居りますれば更に更に御鞭撻を御願ひ致します
佛式公葬問題は皇國民として誠に痛憤に耐へず自由の身なれば足下に馳せ參し度きも病床にありては如何とも成
し得ず同志の敢闘により悲願達成の一日も早からんことを祈る

中部〇〇部隊 下 村 威

待ちに待ちたる塾内の消息を送つていただいて何よりも嬉しかつた貴兄等が相變らず泰然と控へて居ると思ふと遙かに距つた軍中笑ましくも懐かしい貴兄等が未だに國內に鳴をひそめて居ると思へば日本人も大盤石だ互に祈の威力を信じつつ戦ひ戦れよう幾千里離るるも一心同體神勅奉行尊皇討幕に邁進せん

西部第〇〇部隊 川 添 洋 二

久方ぶりに大兄の勇姿を拜見致し誠に感激に堪へざるもの有之候小國、久木田兩氏より音信あり塾の模様を偲び申候動もすれば安逸に流れんとする自分に鞭打つて今後を貫かんと期し居り候千里を離れるとも一筋の生命に於て不離一體塾及先人の道統を繼ぐべく決心致し居り候

「昭和維新」達願ノ爲獻身ヲ誓フモノ

西部第〇部隊 藤 井 一 郎

戦友幾人話しても切實に天子様を思ひ國を思ふ者なく唯一個人の爲の奉行に過ぎず小生而し塾長の言葉を體し維新に邁進し身は國籍にありてもあく迄草莽の士を以て維新の大道に驚れる覺悟です

〇〇〇司令部 佐 藤 新 平

桑原參謀殿の身上御案じ致す時強力な實に力強い精強百萬の味方を得たとも言ふべき大兄の深い暖かい愛情を知る悦びで一杯です桑原參謀殿のためにもこんな有難い事はありません思想の據り所のない時に最後に先生の許に駆け込むべき所に駆け込んだのに外ありません小生身を以て維新のために進みます

滿洲第〇〇〇部隊 山 本 周 造

尊皇攘夷の道に立つて現在兵の位置にあります時實に多くの事を曾て知らざりし多くの事を知り悲願に心が如實

に躍動するを覺えます維新難中の難を行ふこと俗論を斬ること唯峻しい道を行く覺悟です

影山ヲ崇拜自己ノ心境ヲ訴フルモノ

「一ツの戦友」を読み學窓を出て直ちに入隊した私は日本を背負つて立つ青年の道は影山先生の精神力を自己の生命として行くより他に道は無いと確信しました「維新者の信條」「七・五事件記録」大至急御送り下さい

〇〇海軍病院 二 宮 正 夫

塾長先生愈々御健勝にて國事に御奔走の事と遠察致します貴下の熱血の著書を拜見し血の沸るを覺え屍を戰場に晒し得ざりし不忠の臣が傷痍軍人として國家社會の厚情に甘え餘生を送るを潔とせず我が命ある限り否生き變り死に變り皇軍本來の大悲願に殉じて行き度いと存じます

○所見

一、皇軍將兵ハ 天皇親率下鞏固ナル軍ノ團結ノ中ニ在リテ一意本務ヲ遂行スヘキモノナルハ明カニシテ次官通牒ノ趣旨モアリ軍ノ團結ヲ破壞スルカ如キ策動ハ斷乎排撃スヘキナリ

二、天皇親政 天皇親率ノ意義ヲ誤解シテ中間機關ヲ排撃セントスルカ如キ思想言動ハ誤レルモ甚シト謂ハサルヘカラス即チ「其司々をこそ臣下等は任そふれ其大綱は朕親之を攪り肯て臣下よ委ぬへきものにあらば」ノ御諭シニ則リ指導ヲ誤ラサルコト肝要ナリ

三、將校及將校生徒ニ對スル策謀ハ前例ニ徴スルモ特ニ注意ヲ要スル所ニシテ關係上官ノ監督ヲ徹底セシムルノ要アリ又病院工場等ハ外部ノ策動ノ乘スル虚隙多ク軍紀上一ノ弱點ナリ之カ監督ノ衝ニ在ル上級司令部等ニ於テ查察監察ヲ忽ニセサルコト肝要ナリ

五、上級將校ノ瀆職事例

1、報道部員ノ惡徳甚シキ瀆職事例

○事件ノ概要

(一) 山家中佐ハ北支方面軍報道部員ニ支那派遣軍南京上海報道部在勤中

1 北京ニ於テ中國人女優李明ト情交ヲ結フニ至リ月六、七百圓ノ生活費ヲ支給シ北京、南京、上海ニテ同棲ス

2 上海ニ於テハ李明ヲシテ劇場關心大戲院ヲ經營セシメ月々四、五千圓ヲ供與ス

3 其ノ後上海ニテ女優白光トモ關係スルヤ李明ヲ北京ニ放逐シ又李明ノ家屋ヲ敵産ナリトシ北京市公署ヲシテ登録ヲ取消サシメ且李明ノ實父ニ不實ノ罪ヲ科ス

4 本年五月ヨリ七月迄ノ間白光ニ與ヘタル金額ノミニテモ十二萬五千圓ニ達ス

5 上海在勤中

○軍用名義ニテ米麥ノ買付ヲ爲シ百五十萬圓ヲ利得ス

○對重慶逆宣傳記事掲載ヲ繞リ一部新聞社ヨリ十萬圓ヲ收受

○情婦ヲシテ偽情報ヲ作成セシメ之ヲ報告シテ軍ヨリ工作費二、三萬圓ヲ取得ス

等ノ風評アリテ容疑濃厚ナリ

6 本年八月内地轉屬ヲ命セララルルヤ北京ニ於テ三萬五千圓ノ家屋ヲ購入シ白光ノ父母及弟妹ヲ居住セシメ自ラ同女ヲ伴ヒ内地ニ歸還ス(現在モ同棲シアル疑アリ)

7 在支中中國人名義ニテ十一萬餘圓ヲ預金シ現在猶八千餘圓殘置シアリ(他ニモ多額ノ預金アル疑アリ)等ノ行爲ヲ敢テシ更ニ北京、上海ニ於テ常ニ支那側要人ト接觸賭博ニ耽溺シ或ハ阿片ヲ吸喫シ遂ニ中毒トナルヤ二萬圓ヲ以テ治療セントスル等皇軍將校トシテノ威信ヲ甚クシク失墜セリ

(二) 北京在任中ノ狀況

(1) 女優李明ト關係

ヨリ

北京進化社^{三六九}報社社長 中國人 朱 書 紳

北京市内四區太平倉菊兒胡同一號

中國人 女優 李明

ヲ腹心ノ部下連絡員トシテ諸工作ニ任セシメアリシカ昭和十四年暮頃宴會席上ニテヲ知ルヤ朱書紳ヲ通シテ友人トシテ交際ヲ懇望、爾來親交スルニ至リタルカ當時李明ハ滿映ニ勤メ月收約八百五十六圓ヲ得アリシヲ中佐ハ斡旋シテ燕京映畫社ニ轉勤セシメ尙其ノ後交際濃厚トナルニ及ヒ同社ヲモ退カシ、メ以後月六百圓ヲ支給シテ李明ト同棲ス

(2) 昭和十五年北京市長ヨリ『家屋土地ノ臺帳整理スヘキニ付所有者ハ登記申告スヘキ旨』布告ヲ發セラレタルカ當時ノ李明家屋ハ伯夫李季玉ノ所有トナリアリ

該臺帳ハ事變勃發ト同時ニ李季玉之ヲ携行逃走セル爲中佐ハ李明實父李健甫ノ依頼ニヨリ朱書紳ヲシテ

大東洋服店主 (在北京王府井)
同 森泰洋服店主 (在北京西單)

南京在任中ノ狀況
ヲ保證人トシテ名義ヲ父李健甫ニ變更登記セシメタリ

昭和十六年夏中佐ハ南京へ轉任スルヤ著任後約一ヶ月ニシテ李明ヲ北京ヨリ招致シ南京ノ某旅館ニ寄宿セシメ日々平均二百圓ヲ支給シアリタリ

上海在任中ノ狀況

(1) 昭和十七年夏上海へ轉任ノ際モ李明ヲ同伴シ且同年十月頃ヨリ中國劇場蘭心大戲院ヲ經營セシメ月々四、五千圓ヲ李明ニ供與シ同棲生活ヲ營ミアリタリ

(2) 女優 白光トノ關係

本年三月頃上海ニ於ケル某宴會席上李明ヨリ白光ヲ紹介セラルルヤ爾來中佐ハ白光ニ厚意ヲ寄スルニ至リ且李明ヲ嫌忌シ戲院ノ經營ヲ中止スルト共ニ五月頃兩者遂ニ絶交シ一方白光ト中佐ハ同棲生活スルニ至リ此間日夜遊興ノ巷ニ出入ス

而シテ白光ノ北京ニ遺留セル金錢出納簿ニ依レハ本年五月ヨリ七月迄ノ間中佐ハ白光ニ十二萬五千餘圓ヲ與ヘアリ

(3) 李明、白光ト三角關係ヲ生シタル以後ノ狀況

(4) 本年五月中佐ハ李明ヲ北京ニ放逐セシメントシ在北京朱書紳ヲシテ李明ノ父ニ李明ノ歸燕方ヲ打電セシメ

タルカ之カ爲李明ハ荷物、其ノ他ヲ上海ニ殘置ノ儘歸燕セリ

(4) 之ニ對シ中佐ハ「李明ハ素行修ラス無斷歸燕セリ」ト難辯ヲ付ケ

上海報道部附

軍 屬 新 谷 要 二

ヲ北京ニ派シ朱書紳ヲシテ前記家屋登記ノ件ヲ取消シ家屋ヲ沒收セシムルト共ニ「李明ノ父ハ官吏ヲ欺キ公文書ヲ作成シタルモノナリ」トテ父李健甫ヲ警察局ニ留置セシメ同家ニ保管シアリシ家具類三十餘點ヲ沒收之ヲ白光ニ提供スヘク在北京新聞協會森田次郎ニ依託セシメタリ

(4) 在上海中ノ風聞 (容疑ノ點濃厚ナルモノ)

(i) 軍用品名義ニテ米、麥ノ買付ヲ爲シ之ヲ市井ニ轉賣シ百五十萬圓ヲ得タリト

(ii) 軍用品トシテ日支人ヲ利用上海ヨリ天津方面ニ相當量ノ服地、藥品等ヲ輸送シ多額ノ金錢ヲ取得セリト

(iii) 在上海各新聞社長ヲシテ對重慶逆宣傳記事ヲ掲載セシムルニ當リ申報、新聞報ノ記事掲載ニ關シ差控方ノ願出ニ應シ兩者ヨリ十萬圓ヲ收受セリト

(iv) 情婦白光、李明等ヲ利用重慶側偽情報ヲ作成軍へ提出シ工作費二、三萬圓ヲ取得セリト (李明偽受領證作成ス)

其ノ他

1. 本年八月異動ニ伴ヒ内地轉勤ヲ命セラルルヤ荷物三十數個(白光ノ分ト共ニ)ヲ上海報道部ヨリ北支那方面軍報道部宛軍需品名義ニテ輸送シ何レモ新聞協會森田次郎ヲ通シ白光方ニ保管ス其ノ主ナル品目員數別紙ノ如シ

2、在支中國人名義ニテ十一萬餘圓ヲ預金シ現在八千餘圓ヲ殘置シアリ(他ニモ相當ノ預金アル疑アリ)

3、轉任ニ當リ本年八月二日ヨリ十四日迄故ナク白光ト共ニ北京ニ滞在セリ

此ノ間白光ヲシテ三萬五千圓ノ家屋ヲ購入セシメ白光ノ父並同家族ヲ左記ニ轉任セシメアリ

北京市内二區糖房胡同一〇號

父、母、弟一、妹三

4、在支中へ晝夜ノ別ナク上層支那人ト共ニ賭博ニ耽溺シ又ハ阿片ヲ嗜ミ遂ニ中毒症トナリ一日平均百圓内外ヲ喫シアリシカ何レモ支那側要人等ヨリ之カ提供ヲ受ケアリタリ

内地歸還ニ當リテ中毒症ヲ治療スヘク上海ニ於テ二萬圓ヲ以テ療治ニ努メタリト

5、白光ハ現在靜岡市大岩宮下町四〇番地ニ山家博子ト稱シ中佐ト同居シアルカ如シ

白光宅ニ殘置シアル主ナル荷物

- 一、家 具 二五點
- 一、中 國 史 一五〇部
- 一、骨 董 類 一二五點
- 一、靴 類 一九個
- 一、掛 軸 四五個
- 一、三三耗映寫機附屬品共一切 一臺
- 一、ピアノ(新品) 一臺

- 一、背 廣 服 一着
 - 一、支 那 服 三三着
 - 一、毛革オーバ毛支那服其ノ他毛革類 一三着
 - 一、洋 服 地(反) 四八着
 - 一、ネクタイ 三〇點
 - 一、其ノ他シャツ毛類婦人用靴下 二箱
- (以上時價數十萬圓)

○處分

- 一、本人 審理中
- 二、責任者

○所見

(一) 特殊勤務者ノ服務ノ監督指導ヲ一層徹底スルヲ要ス

特殊勤務者ハ動モスレハ秘密工作ノ美名ニ匿レ服務計畫、實施又ハ結果報告ヲ疎漏ニスルノミナラス獨善、越軌或ハ不規律等ノ弊ニ陥リ易ク上司其ノ他關係者又之ヲ看過默認スルノ嫌ナシトセス宜シク服務計畫實施又ハ結果報告等ノ點監督指導ヲ至嚴ナラシムルヲ要ス

(二) 特殊勤務者ノ選定ニ當リテハ身上性格等ヲ慎重ニ考慮スルヲ要ス

山家中佐ハ中尉時代ニ於テ川島芳子トノ關係ニ就キ世上兎角ノ風評アリシト聞ク又在支間妻ニ死別シアル等特殊

勤務將校トシテ考慮ノ餘地アルニ拘ラス特ニ處置ヲ講スルコトナク長期間現地ニ服務セシメ十全ノ監督ヲ怠リア
リタルハ反省ヲ要スル所ニシテ特ニ情緒ヲ持チ多額ノ出資ヲ要スルニ至リタルハ本件兇行ノ主原因ト認メラルル
ニ於テ然リトス

(三) 上級將校ナルノ故ヲ以テ其ノ私生活ノ監督ヲ忽シテ附セサルヲ要ス
上級將校ニ對シテハ動モスレハ其ノ私生活ヲ放任シテ監督指導ヲ等閑ニ附スルノ弊ナシトセス上司ハ骨肉ノ情ヲ
以テ自ラ又ハ輔佐者ヲシテ其ノ生活狀態特ニ交友及婦人關係、金錢ノ收支等ヲ明カニシ放縱化ヲ戒ムル等嚴密ナ
ル監督ヲ必要トス
實際人物中殊ニ華人ハ利用セントシテ寧ロ巧ミニ利用セラルル虞アルヲ以テ不斷ノ警視ヲ必要トス

(四) 特殊勤務者ノ服務定位ヲ明確ニスルヲ要ス
特殊勤務者ト雖モ爲シ得ル限り固有ノ官衙ニ於テ執務セシメ任務ノ性質上他ニ執務場所ヲ必要トスル場合ニ於テ
モ起居ハ別ニセシムルヲ肝要トス

(五) 特殊勤務者ニ對スル豫防警察ヲ強化スルヲ要ス
監督指導ハ統率系統ニ就テナスヘキモノナルモ監督困難ナル特殊勤務者又ハ部外トノ關係多キ者ニ就テハ憲兵ノ
協力ヲ密ナラシムル如ク關係上司ヨリ進ンテ憲兵隊ニ連絡スル如ク指導スルヲ可トス

(六) 特殊勤務者ノ服務定位ノ警戒又ハ連絡者等ノ觀察ノ爲憲兵隊トノ連絡ヲ密ナラシムルヲ要ス
固有ノ官衙以外ニ公館、事務所又ハ連絡所等ヲ設ケ執務スルモノヲ管轄スル長官ハ密ニ憲兵隊ト連絡シ其ノ場所
ノ警戒特ニ出入人物等ニ對スル觀察ニ關シ協力ヲ求ムルヲ可トス

(七) 華人ニ對スル證明書等ノ發給ハ一層慎重ナルヲ要ス
華人情報員等ニ對シ身分證明書又ハ之ニ類似ノモノヲ發給スルコトハ總參謀長通牒ヲ以テ禁止セラレアル所ナル
モ今尙徹底セサルモノアルヲ以テ再檢討ノ上嚴ニ勵行セシムルヲ要ス

(八) 轉任者ノ荷物検査ヲ勵行スルヲ要ス
轉任者特ニ内地歸還者ノ荷物ニ就テハ部隊長ニ於テ検査スル如ク定メラレアルモ單獨將校ノモノニ就テハ疎漏ノ
嫌ナレトセズ要スレハ憲兵ノ立會ヲ求ムル等検査ヲ勵行スル如ク重ネテ一般ニ徹底スルヲ要ス

2、陸軍航空審査部現役中佐ノ瀆職事件

○事件ノ概要

高城中佐ハ陸軍工科學校陸軍士官學校本科ヲ卒業後果進シテ陸軍航空技術研究所陸軍航空審査部ニテ服務中管理工
場重役外十名ヨリ製品ノ審査或ハ技術指導上ニ於テ將來好意アル取扱ヲ受ケ度キ趣旨ノ下ニ贈與セラレ或ハ自ラ借
用名義乃至ハ顧問料名義ニテ金品提供方ヲ要求シ交付ヲ受クル等前後三十九回ニ互リ現金合計一萬七千六百圓商品
券百圓券一枚ヲ收受シタル外待合料亭ニ於テ合計三千八百餘圓相當ノ要應ヲ受ケタリ其他同中佐ハ昭和十二年頃ヨ
リ品川區五反田方面待合料亭等ニ於テ遊興中同地藝妓ト馴染途ニ同女ヲ妾トナシ一女ヲ擧ケ其ノ生活費ヲ負擔シア
リタルモノナリ又某社長ヨリ贈與ヲ受ケタル現金五千圓ヲ以テ神奈川縣茅ヶ崎辻堂ニ家族保養ノ爲別宅トシテ家屋
一棟ヲ新築養母ヲ約二ヶ月居住セシメタル後之ヲ貸家トシテ月額五十圓ノ家賃ヲ得アリタリ

○所見

本件ハ約七ヶ年ノ長期ニ互リ多額ノ金錢ヲ收受シ而モ蓄妾或ハ別邸ヲ建築シテ他人ニ貸與家賃ヲ得ル等皇軍將校ノ

威信ヲ失墜セルモノナリ此ノ種業務ヲ擔任シアル者ノ監督指導ニハ特別ノ注意ヲ要スルモノアリ

○處分

- 一、本人審理中
- 二、責任者 審査部長 訓責
- 三、小倉陸軍造兵廠々長以下高級將校等ノ瀆職事件

○事件ノ概要

小倉陸軍造兵廠々長以下四名ノ高級將校ハ 自昭二、六頃間下請會社、工場關係者ヨリ請ハルル儘ニ他ノ高級將校三名ト共謀又ハ單獨ニテ官有兵器資材八十一萬一千四百餘圓相當ヲ下級將校、軍屬等ニ命シテ無償交付セシメタル外、同廠ヨリ小銃部品等ノ加工ヲ請負ヒタルモ設備不完全、技術未熟等ノタメ一部納入期日遲延シ契約金取得遲レ資金ノ運用困難トナリタル下請會社ヨリノ請託ヲ容レ部下ヲシテ完納セル如ク公文書ヲ偽造シ、契約金ヲ全額支拂ハシメ、同廠技手一ハ關係會社工場社員十一名ヨリ一千六百餘圓ノ賄賂ヲ收受シ自己ノ業務上保管ニ係ル官材三百圓相當ヲ横領交付シタル外官材五十圓相當ヲ物取シ自宅ニ隠匿シタリ

○處分

- 廠長 急死
- 某大佐 懲役六月(追徴金三百十二圓)
- 某少佐 同 二年(同 六千五百三十二圓)
- 某技手 同 一年(同 七百三十三圓)

他ニ中佐一、兵技中佐一、少佐一、不起訴トナル

○所見

決戦下兵器増産ノ最緊要時ニ於テ高級將校自ラ斯種事犯ヲ敢行シ利へ情實の團結ヲ爲スカ如キ曾ニ軍秩ヲ素ルノミナラス皇軍作業廳ノ生産ヲ阻礙スルコト大ナルモノアルニ鑑ミ左ノ諸點ニ就キテハ特ニ留意スルノ要アルモノト認ム

- 幹部ノ自肅自戒
- 軍紀ノ確立特ニ廠内人事ノ刷新及情實の團結排撃
- 特種管理會社工場ニ對スル監察ノ勵行
- 中央官廳側ノ監督指導強化
- 材料交付業務ノ刷新改革
- 情實契約及陳情ノ撲滅
- 自由主義的營業政策ノ是正指導
- 嚴正ナル經理検査等ノ實行

六、幹部候補生ノ放火事件

○事件ノ概要

東部第八十三部隊幹部候補生某(上等兵ノ階級ニ在リ)ハ二月初旬靴傷ニ因リ練兵休ヲ命セラレ教練成績日毎ニ低下

スルヲ苦慮シ將來發展ノ可能性ナシト思料日夜煩悶シアリタル折柄二月二十九日不經番勤務中中隊事務室ニ入り廻
番副官ノ輕靴一袋ヲ盜食セルヲ發見セラレ中隊長及助教ヨリ「幹部候補生ノ資格ナシ」ト叱責セラルルヤ極度ニ悲觀
シ且戰友ヨリ白眼視セラレアルモノト體測益、自己ノ將來性ニ自信ヲ失ヒ更ニ自己ノ偏見ヨリ部隊内ニ於ケル菓子
類ノ配給ハ下士官及古參兵等カ初年兵ノ配給量ヲ減シ志ニ多量ニ取得シアリト(事實ハ公平ニ配給シアリ)邪推下士
官ノ態度ニ憎惡ヲ感シアリタル處三月二十五日再ヒ戦傷ノ爲他ノ候補生九名ト共ニ休養ヲ命セラルルヤ中隊幹部ノ
現地戰術出張不在中ナルヲ奇貨トシ下士官ノ菓子類所持量ヲ確認スヘク十三時三十分頃戰友ニハ「階下第六班ノ戰
友ノ處ニ行ク」ト稱シ助教班長ノ居室タル第二下士官室ニ侵入豫テ輕靴盜食問題ヨリ怨恨ヲ有シアリタル助教外十
名ノ手箱机等ヲ搜索シ各、二袋乃至六袋林檎若干所持シアル事ヲ確認(下士官ハ何レモ應召者ニシテ家族ヲ有スル
爲之ニ與ヘントシテ自己ニ配給セラレタルモノヲ食セス蓄積シアリタルモノ)極度ニ憤激シ菓子林檎等全部ヲ廢棄
上ニ投出シタル上其ノ一部ヲ喫食シタルモ下士官ノ歸隊後ノ發覺ヲ怖レ且菓子ニ對スル憤憤ヲ晴スヘク放火ヲ決意
シ同日十四時頃助教寢臺整頓棚下方ニアリタル紙屑箱(反古紙充滿)ニ點火シ火始ヲ確認シタル後階下第六班戰友ヲ
訪問逃避シ依テ同中隊及部隊本部兵舍一棟兵器被服、陣營具其ノ他一切ヲ燒失セシメ此ノ間自己ノ犯行ヲ隱蔽スヘ
ク戰友ノ救助作業ニ從事シ更ニ同夜將校集會所ニ於ケル部隊長ノ殘留者取調時同階下物品販賣所ニ侵入菓子類ヲ
劫取ノ上喫食歸班後戰友ニ分配シ三月二十九日十四時頃愈、身ニ危險ヲ感スルヤ高飛セントシテ演習場ヲ脱出隣接
部落ノ農家ニ到リ食ヲ乞ヒ拒絶セラルルヤ家人ノ陳ニ乘シ同家ヨリ黒色「オーバー」戰闘帽ヲ劫取著裝ノ上部落ヲ俾
御中被害者ニ發見セラレテ盜品ヲ取戻サレ且終生逃走ノ不可能ナルヲ露示セラルルヤ願意シ十六時頃素知ラヌ態度
ヲ以テ歸隊セリ

○所見
本人ハ二歳ノ時他家ノ養子トナリアルカ實家ノ狀況ヲ觀ルニ父ハ荷役夫ニシテ前科三犯放蕩ニシテ現在妻(元淫賣
婦)ト同様シ母ハ結婚數年後男三名ト私通シ姉ハ藝妓ヲナシアリタルカ現在身請サレタル等家族ノ殆ントカ前科者
素行不修者ニシテ皇軍幹部ノ家庭トシテ極メテ不適當ナリ又本人ノ性行ヲ觀ルニ盜癖其ノ他要注意事項カラス家
庭ノ狀況ト共ニ身上調査不十分ニシテ幹部候補生トシテ不適當ナリ中隊長等ハ部下ノ身上調査ヲ綿密周到ニシテ指
導ヲ誤ラサル如ク一段ノ注意ヲ要ス

○處分

- 一、本人審理中
- 一、責任者
- 部 隊長 重謹慎
- 中隊長 同 三十日
- 中隊長代理 同
- 遇番司令 同 十日

○平塚陸軍航空廠機械工場ノ火災

1、出火及鎮火 昭和十九年四月二十八日 二時〇分
 出火 三時四十分
 鎮火 同

2、原因

該工場ノ重油爐故障修理ニ方リ操作ヲ誤リ重油ニ引火シ火災トナル

3、損害

1、機械工場全機機械全部使用不能ノ見込
 2、重傷(骨折) 全治四週間 一名
 微傷 一五名

4、責任者ノ處分

修理科長 重謹慎 五日
 同 部品工 十日
 同 主任 十日
 其ノ他

○太刀洗陸軍航空廠ノ火災

1、出火及鎮火 四月二十四日 一八、三〇
 出火
 鎮火

鎮火 同 一九、三〇

2、原因

技能者養成所ニ於ケル失火

3、損害

講堂一棟飛行機格納庫一棟燒失
 在庫機教材用一〇機燒失

4、責任者處分

日直司令 輕謹慎 三日
 日直士官 同 十日
 航技少佐(工場長) 同 十四日
 航技中尉(工場附) 重謹慎 二十日
 其ノ他

○立川陸軍航空廠ノ火災

1、出火及鎮火

出火 四月二十六日 二一、五八
 鎮火 同 二二、二五

2、原因

工員カ火爐ノ火起シノ際「ボロ」屑ニ油ヲ注キ點火セル爲附近ノ油ニ引火シタルモノナリ

3、損害

イ、整備工場事務室全焼

ロ、整備器具五箱、工員用脱衣箱二箱焼失

4、責任者處分

廠長 重謹慎 三十日

宿直司令 輕謹慎 二日

整備科長 同 三日

其ノ他

○陸軍戸山學校ノ火災

一、出火鎮火日時

出火 昭和十九年五月十八日 ○二、三〇頃

鎮火 同 ○四、〇〇頃

二、原因

漏電

三、損害

1、學校本部木造二階建一棟殆ト全焼

2、二階ノ備付品ハ非常ノ持出ヲ除キ全部焼失

四、責任者處分

學校長 重謹慎 七日

日直司令 譴責

加罰重謹慎 五日

日直副官 同

經理委員主席 輕謹慎 三日

加罰重謹慎 五日

其ノ他

○火災事故ニ關スル所見

一、火災豫防ニ萬全ヲ期シ此ノ種事故ノ絶滅ヲ期スルハ現戰局下特ニ注意ヲ要スル所ナルモ頻々トシテ而モ重要作業處ノ火災發生ヲ見ルハ極メテ遺憾トスル所ナリ

二、火災ノ原因ハ殆ト總テ諸規定ノ履行不確實、火災豫防ニ關スル注意心ノ缺如等志氣ノ緊張ヲ缺キタルモノナリ漏電ニ基因スル場合ニ於テモ尙検査及注意不十分ナルモノナリ決シテ責ヲ免ルルモノニ非ス

八、陸軍病院長ノ看護婦強姦事件

○事件ノ概要

一、南方陸軍病院長某軍醫大佐ハ豫テヨリ申張ナル言動多ク殊ニ同病院長トナリテヨリハ看護婦ニ對シ屢々猥褻ナル行動ニ出テタルコトアリ且部下ニ對シテハ專恣横暴ヲ極メ部下ノ意見具申ヲ喜ハス自己ノ意ヲ迎ヘサル者ハ之ヲ斥ケル等部下ヨリ甚シク怖レラレ居リタルカ昭和十八年八月頃ヨリ病院附陸軍看護婦某ヲ識リ同女ノ温順ナル性質ニ著目シテ自己ノ病院長タルノ威力ヲ藉リテ同女ヲ脅迫遂ニ之ヲ姦淫シタリ

二、右病院衛生兵長某ハ郷里ノ村助役及大政翼賛會縣幹部等ヲ奉職中召集セラレ右病院ニ在リテ勤務中病院長ノ前記言動ヲ聞知シ生來正義感強ク痛ク之ヲ憂慮シアリタルカ強姦シタルコトヲ聞キ憤激シ病院長ニ諫言セシコトヲ企圖シ關係上官ニ面會セシメラレ度旨要求シ同人等ノ慰撫ヲ肯セス止ムナク同行セル者ト共ニ宿舍ニ病院長ヲ訪問シ諫言遂ニ切腹ヲ強要シタルモノナリ

○處分

病院長 某大佐 懲役三年

衛生兵長 禁錮一年六ヶ月

○所見

陸軍病院長ノ處分ハ輕キニ失セサルヤ病院長ノ職權ヲ亂用シテ其ノ部下タル看護婦ヲ強姦スルカ如キハ嚴重處分ヲナスヘキナリ之ニ反シ衛生兵長ノ行爲ハ情狀ニ於テ諒トスヘキモノアリ

第二、雜

註 昭和十八年度主要犯罪事例ハ既ニ軍紀風紀要注意事例集ニ揭示シアルヲ以テ重複ヲ避ケ其ノ後ノ主要事例ヲ集録セリ